

3205 110

大正天皇實錄

卷六十一

圖書寮	
冊號	64047
冊數	97
函號	秘 4

90 9 8 7 6 5 4 3 2 1 80 8 7 6 5 4 3 2 1 70 7 6 5 4 3 2 1

大正天皇實錄

大正天皇實錄

大正天皇實錄

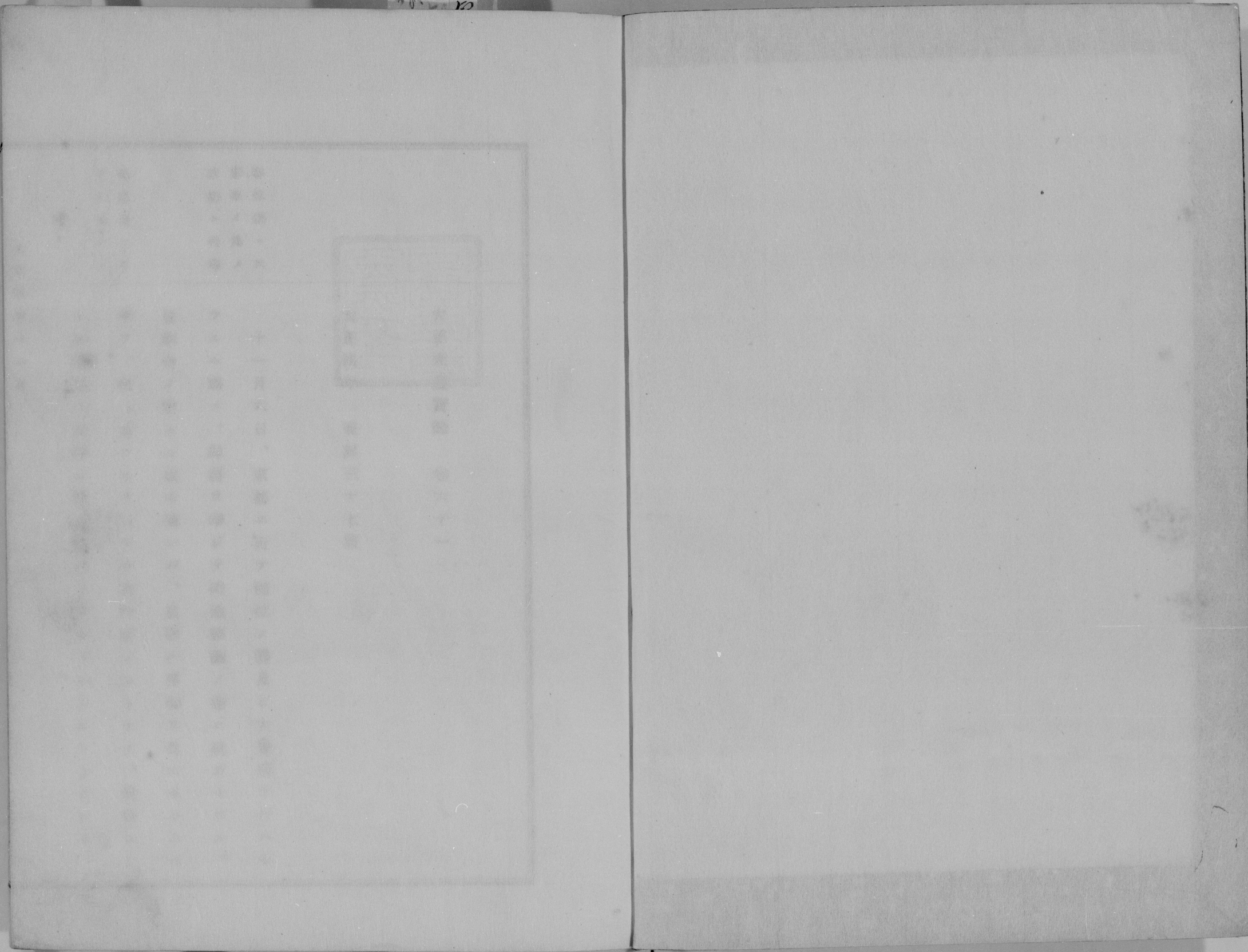
大正天皇實錄

大正天皇實錄

3205 111

大正

大正
大正



競業

猫
官報校令

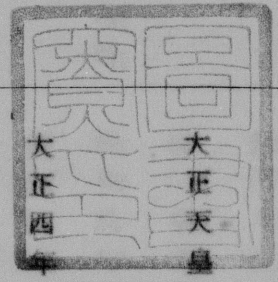
3205 112

大正四年
大正四年

大正四年

大正四年十一月

即位禮・大
嘗祭ノ爲メ
京都ニ行幸
皇后慶アリ
ヲ行啓ナシ



大正天皇
實錄 卷六十一

實算三十七歲

十一月六日、京都ニ於テ即位ノ禮及ビ大嘗祭ヲ行ハセ
ラルル爲メ、神器ヲ奉ジテ同地移御ノ途ニ就カセラル。
登極令ノ定ムル處ニ據レバ、皇后ハ移御ヲ共ニセラルベ
キヲ、偶々慶アルヲ以テ今次行啓ノコトナク、鸞掖ニア
リテ諸儀ノ辰時ニ際シ遙拜アラセラルルコトトナレリ。

一

猶中
官報

鏡
業

賢所ノ祭典

是ノ日發轡ニ先立テテ種々ノ御儀ヲ行ハセラル。先ツ賢所ニ於テハ午前二時三十分御殿ヲ裝飾シ、三時三十分掌典長岩倉具綱以下參進、祭典アリ、御代拜侍從日根野要吉郎・皇后御代拜皇后宮主事男爵東久世秀雄ノ拜禮ノ後撤儀ス。尋イテ掌典長ハ次長・掌典・内掌典ヲ率キテ殿内ニ參進シ、賢所ヲ御羽車ニ奉遷スレバ、南階ノ雲梯下ニ跪ク八瀬ノ駕輿丁十六名ハ恭シク御羽車ヲ奉昇シ、六時ヲ以テ肅々ト賢所正門ヲ發轡アラセラレ、千里門ヲ通過、振天府ノ一場ヲ右ニシ、道灌堀ノ長堤ヲ左ニシ、三角門ヲ出御、宮城ノ正門ニ近ク進御アリ。時恰モ天晴レ、

賢所御羽車ニ移御

賢所御出門

圖書寮

鳳輦ニ乘御

拭フガ如ク紅暎始メテ昇リ佳氣六合ニ滿ツ。午前六時十五分天皇、御羽車ヲ鐵橋前ニ於テ奉拜アラセラレタル後、直ニ鳳輦ニ乘御、御羽車ニ續キテ、龍顏麗シク宮城正門ヲ出御、東京停車場ニ櫛ハセラル。門外兩側ニハ貴衆兩院議員及ビ高等官三等以下ノ文官二千六百餘名列立シテ奉送シ、宮城前ノ鐵路ニハ陸海軍儀仗兵堵列シ、芝生地ニハ奉送ノ學生・生徒・市民老若男女屬集シテ實ニ立錫ノ地ナシ。宮城・東京停車場間ニ於ケル鹵簿ハ特別公式鹵簿ニシテ賢所御羽車・鳳輦・供奉儀裝馬車十餘輛アリ、猶ホ掌典・近衛將校等ヲ加フレバ、全

特別公式鹵簿

猶ホ

(官報校)

燒業

東京停車場ニ著御

延長五町十餘間ニ及フ。一分間百十歩ノ速度ヲ以テ馬場先門跡ヲ經テ東京停車場ニ進ミ、六時三十二分著御、廣間ニ於テ鳩彦王・同妃允子内親王・成久王・同妃房子内親王・恒久王・同妃昌子内親王ニ、便殿前ニテ大勳位以下從一位以上ノ者ニ謁ヲ賜ヒ、便殿ヨリ第四乘降場ニ進御、賢所ニ御拜ノ後、賢所乘御車ノ次ニ連結セル御料車ニ乘御アラセラル。此ノ時第四乘降場ニハ皇后御使皇后宮大夫事務取扱伯爵德川達孝・皇太子御使東宮大夫男爵濱尾新竝ビニ鳩彦王・同妃允子内親王・成久王・同妃房子内親王・恒久王・同妃昌子内親王等六皇族ヲ始メ大勳

御發軔

名古屋ニ駐

位以下從一位以上ノ諸員、又第三乘降場ニハ勳一等以下從四位ニ至ル諸員奉送シ、七時御發軔アラセラル。停車場前ニ敬禮セル儀仗騎兵・陸海軍儀仗隊ノ喇叭ノ音囀曉トシテ起リ、又皇禮砲ノ響鼓々トシテ轟キ、之ニ交リテ花火ノ爆音アリ、沿道ニハ幾萬ノ群衆齊シク萬歳ヲ叫ビテ奉祝ノ赤誠ヲ表セリ。列車ハ山北・沼津・静岡・濱松ノ各停車場ニ停車シ、午後四時名古屋停車場ニ著御、御降車ノ際賢所ヲ御拜アリ、便殿ニ入御、乗降場ヨリ車寄ニ進御、儀裝馬車ニテ名古屋離宮ニ向ハセラレ、五時七分著御、駐蹕アリ、賢所ハ同所假殿ニ移御アラセラル。

名古屋停車
場發
御

京都皇宮ニ
著御

翌七日モ亦天氣快晴ナリ、午前八時五十分離宮ヲ出御、
表一ノ門ヲ經テ右折シ、岐路ニ於テ賢所ノ進御ヲ待タセ
ラレ、通御ヲ奉迎ノ後、之ニ續カセ給フ。鹵簿全ク成リ
八時五十九分離宮正門ヲ出御、九時二十七分名古屋停車
場ニ著御、同五十分御發輓、大垣・米原・大津各停車場
ニ停車ノ後、午後二時京都停車場ニ著御、三時十八分京
都皇宮ニ御安著、爾後、還幸迄駐蹕アラセラル。コノ時、
春興殿ニ於テハ賢所渡御ノ儀アリ、賢所ヲ御羽車ヨリ御
座ニ奉安、神饌供進。祝詞奏上ノ後、御代拜侍從男爵澤
宣元・皇后御代拜掌侍吉見光子拜禮シ五時四十五分コノ

圖書寮

紫宸殿ニ於
テ御習禮

春興殿ノ沿
草ト其ノ構
造

儀全ク終了ス。大禮記録・官報・侍從武官府
日誌・侍從職日記・典侍日記
八日、午前十一時三十分紫宸殿ニ出御、即位禮當日紫
宸殿ノ儀ノ習禮ヲ行ハセラル。大禮記録・官報・侍從武
官府日誌・侍從職日記・

典侍
日記
十日、午前春興殿ニ於テ賢所大前ノ儀ヲ、午後紫宸殿
ノ儀ヲ行ハセラル。賢所大前ノ儀ハ即位ノ事ヲ親シク皇
祖ノ神靈ニ告ゲサセラレ、寶祚無疆ト民福ノ増進トヲ祈
請セラルル儀ナリ。春興殿ハ京都皇宮ニ於ケル賢所奉安
ノ齋殿ニシテ、東京宮城ニ於ケル溫明殿ニ等シ。往古ハ
大内裏ノ一區ニ在リ、紫宸殿ノ東南ニ位シ、宣陽殿ノ南

猫

官報校

鏡業

即チ日華門ノ南ニ在リテ西ハ安福殿ト相對セリ。殿ハ西面ニシテ廣サ七間三面、西ハ上廂ヲ以テ左掖。日華ノ兩門ニ通セリ。今次新造ノモノハ紫宸殿ノ東ニ位シ、建春門内ナル内侍所址ニ在リ、廣サ五十八坪餘、南廂・外陣・内陣及ビ内々陣ニ區劃セラル。周圍ニ縁ヲ環ラシ之ニ接續シテ殿東ニ大清ヲ構築シ、正面ニ木階ヲ設ケ、周縁ノ東・西・北三面ハ中央ノ木階ヨリ渡廊ヲ經テ所屬舎ニ連絡ス。其ノ外觀ハ花崗石積ノ壇上造ニシテ、檜ノ圓柱ヲ石据建トシ、外部ヲ白壁塗トス。本殿ノ屋根ハ單層ノ照屋根・入母屋造、正面ノ向拜ハ指勾配ニシテ附屬大清ハ

圖書寮

春興殿ノ殿上鋪設

片流ノ招造ナリ、總テ銅製ノ鍍葺トス。殿ノ正南十二間ノ處ニ正門アリ、門ノ左右ハ築地塀ヲ築キ、之ニ連續シテ兩庭ノ周圍ニ土塀ヲ環ラシ、殿ノ正面ナル木階ノ西ニ御羽車所ヲ設ケ、東ニ奏樂舎ヲ構フ。庭上ニハ神樂舎ヲ中央トシテ東西兩側ニ幅舎ヲ設ケ、正門ノ左右ニ手水舎ヲ置ク。小御所ノ兩廊ヨリ舊十八間廊ノ址ニ通御廊下ノ殺アリ、殿ノ背面ニ違ス、殿ノ外陣ニハ左右ヨリ東西ニ通ズル廊下アリ、西ニ皇族休所。東ニ神饌殿ヲ配置シ、神饌殿ノ南ニ掌典部員ノ詰所アリ、次ニ殿上ノ鋪設ヲ要言スレバ、内陣ノ中央ニ御座ノ御疊ヲ鋪キ、其ノ側ニ劍

靈案ヲ安ク、外陣ニ御玉串假體案ヲ設ケ、南廂ニ薄疊ヲ
 設ケテ皇族ノ本位ト爲ス。小御所ヨリ舊十八間廂ニ至ル
 通御路ニハ白布、御後階段ニ至ル間ニハ兩面錦ヲ敷ク。
 又奏樂舎ニ和琴ヲ備ヘ椅子ヲ列ネ、神樂舎ノ東西兩側ニ
 威儀及ビ威儀物捧侍高等官ノ胡床各三十脚、司鉦・司鼓
 ノ假輦ノ東西兩側ニ鉦鼓各三面及ビ司鉦・司鼓高等官ノ
 胡床各一脚、判任官ノ胡床各六脚、南門ノ東西兩側ニ衛
 門高等官ノ胡床各三脚ヲ設ケ、東西兩帳舎ニハ御紋散シ
 ノ椅子各九十五脚ヲ列ネテ特派大使使節大勳位以下從一
 位以上ノ本位トシ、取附腰掛各八百席ヲ列ネテ勳一等以

春典殿ニ於
 ケル賢所大
 前ノ儀

下ノ本位トス。南門前ノ東西兩側ニ大眞神ヲ樹テ五色絹
 ヲ繫ケ、東ニ鏡玉、西ニ劍ヲ掛ケタリ。
 是ノ日、如上ノ鋪設畢リテ午前六時建禮。建春ノ兩門
 開クヤ、七時三十分本儀參列ニ召サレタル諸員約二千名
 ハ指定ノ參集所ニ入り、黒袍緋袍縹袍ノ衣冠ヲ裝ヘル庭
 上參役ノ大禮使高等官ハ第二朝集所ノ廂ノ左右ニ列立シ、
 八時陸海軍儀仗兵ノ建禮。建春二門ノ外ニ整列スルト共
 ニ漸次參進シテ本位ニ就ク、次ニ掌典長岩倉具綱ハ部員
 ヲ率キ參進シテ管子ニ候ス。又參列ノ諸員ハ八時十六分
 鉦鼓ヲ以テ號ト爲シ、式部官ノ誘導ニテ皆本位ニ就ケリ。

猫

（官報校）

鏡業

御祭典開始

天皇昨夜ヨリ御潔齋アリ、午前九時更ニ御潔齋ノ後、同三十分御學問所ニ出御、侍從原恒太郎帛御袍ヲ進メ、同男爵澤宣元御手水ヲ、同石山基陽御笏ヲ供ス。登極令附式ハ^宜陽殿ヲ以テ進衣所ト規定シタレドモ、今次ハ御學問所ヲ以テ之ニ充テサセラレタリ。午前八時三十六分神樂歌始マリ、掌典立花寛篤・掌典長谷信道御扉ヲ開キ掌典園池實康以下順次參進シテ幣物・神饌ヲ供シ、岩倉掌典長祝詞ヲ奏ス。十時三分式部長官伯爵戸田氏共ノ御先導ニテ御學問所ヲ出御、貞愛親王・載仁親王・依仁親王・博恭王・邦彦王・守正王・鳩彦王・稔彦王・成久王。

出御

圖書寮

御告文ヲ奏セララル

恒久王・李坡公ヲ始メ、内閣總理大臣代陸軍大臣岡市之助・内大臣公爵大山巖・宮内大臣男爵波多野敬直・大禮使長官公爵藤司熊通等供奉ス。寛篤・信道外陣ニ候シテ御帳ヲ奉ケ奉レバ、内陣ノ御座ニ著御アラセラレ、劍璽捧持ノ侍從日根野要吉郎・同伯爵清水谷實英モ内陣ニ參進シテ夫レ案上ニ奉安シ、退キテ南廂ニ候ス。親王・王公族ハ南廂西側ノ本位ニ就ク。天皇、具綱ノ棒グル御玉串ヲ執リテ御拜アリ、玉音高ラカニ左ノ御告文ヲ奏セラ

挂卷 母 恐 使 此 大 前 爾 恐 美 恐 母 美 白 左 皇 祖 大 御 神 皇 孫 尊

猶

官報校

鏡業

乎天津高御座爾坐世奉利事依志奉利給比志遠天皇乃
 御世御世彌高爾彌廣爾知食平志志吾先考天皇維新乃安
 謨平定米御稜威平國乃內外爾輝加給比萬世不磨之典
 平布伎動伎無伎邦基平彌堅爾良加固米給比御名寡德之
 身乎以正其大御業平承繼伎夜爾日爾懼體畏郡美郡勤美
 勞伎仕奉良母止思欲須故今日乃此日法乃隨爾即位禮
 平行止布爲正齋麻波清麻波仕奉留狀乎平良氣安良氣開
 食志天津日嗣乎萬千秋乃長秋爾豐葦原瑞穗乃國平安
 國止平良氣知食米左志給止祈請白須事乎開食止恐美恐
 母美白須

圖書寮

大正四年十一月十日

皇太子拜禮

畢リテ内掌典朝山儀子ノ奉仕スル御鈴ノ音ハ玲瓏森嚴ナ
 ル靜肅ヲ破リテ響クコト九十九回ナリ。寛篤・信道御輓
 ヲ舉ゲ、劍璽捧持ノ侍從相繼ギテ内陣ニ參入シ、之ヲ奉
 ジ十時二十三分入御アラセラル。御先導並ビニ供奉ハ出
 御ノ時ノ如シ。此ノ後、皇后御代拜鳩彦王妃允子内親王、
 五衣唐衣裳ニテ御拜アリ、次ニ東帶關腋ノ御袍ニ空頂黒
 幘ノ皇太子裕仁親王・黒袍縫腋ノ載仁親王以下親王・王
 及ビ五衣唐衣裳ニテ親王妃・王妃ノ拜禮アリ、後、關池
 華典以下幣物・神饌ヲ撤シ、尊イデ閉扉シ、參列ノ諸員

大正四年十一月

猶

官報校合

競業

儀
皇靈殿・神
殿ニ奉告ノ

紫宸殿ノ由
來

退下ス。此ノ儀ニ未成年ナル皇太子御拜ノ事ハ登極令ニ其ノ規定無ク、特ニ聖旨ニ依ルナリ。紫宸殿ノ御儀モ亦然リ。猶ホ東京宮城ノ皇靈殿・神殿ニ於テハ午前九時三十分京都皇宮ニ於テ賢所大前ノ儀ヲ行ハセラルル事ヲ奉告ノ爲メ祭典ヲ行ハシメ、掌典次長公爵九條道實以下之ヲ奉仕シ、侍從子爵松浦靖ハ勅使トシテ、皇后宮主事男爵東久世秀雄ハ皇后宮御使トシテ、何レモ參向拜禮セリ。次ニ午後紫宸殿ノ儀ヲ行ハセラル。紫宸殿ハ古昔或ハ兩殿ト云ヒ、或ハ兩大殿・前殿等ト稱シ、京都皇宮ノ正殿ナリ。明治天皇慶應四年八月二十七日即位ノ禮ヲ行ハ

圖書寮

高御座

御帳臺

セラレタル所ニシテ、殿ハ内裏ノ中央ヨリ少シク南ニ偏シ、承明門内ニ在リ。東西九丈、南北七丈五尺、南面シ、屋根ハ搏風製檜皮葺ニシテ兩下四阿ト爲ス。中央東西九間、南北三間ヲ母屋トシ、母屋ト北廂トノ中間ニ賢聖障子ヲ立ツ。母屋ノ中央兩面ニ三層繼壇ヲ立テ高御座ヲ安キ、壇上第一層及ビ第二層ニ赤地錦、第三層ニ青地錦ヲ敷キ、其ノ上ニ纏網縁疊二枚・大和錦縁龍鬘土敷一枚・大和錦軟毯一枚・東京錦毯一枚ヲ累ネ敷キ、御椅子ヲ据エ、左右ニ螺鈿案各一脚ヲ安ク。高御座ノ東方ニ皇后ノ御帳臺ヲ安キ、其ノ鋪設高御座ニ準ズ。高御座及ビ

猶ホ

官報校合

鏡業

大神乳

御帳臺繼壇ノ下三面ニ兩面錦ヲ敷キ、其ノ北階下ヨリ十八間廊マデハ兩面錦、十八間廊ヨリ御學問所迄ハ白布ヲ敷キテ連道トス。母屋ノ四面ニハ壁代ヲ懸ケ、北廂ノ東西北三面及ビ東廂ノ東南二面ニ軟障ヲ懸ケ、殿外四面ニ翠簾ヲ、又露臺ノ東面ニ翠簾ヲ、西面ニ軟障ヲ、東軒廊ノ兩面ニ翠簾、北面ニ軟障ヲ懸ケ、北廂ノ中央竝ビニ東西ノ兩端及ビ北廂ヨリ東廂ノ入口ニ至ル間ニハ幌ヲ懸ケタリ。又庭上ニハ兩庭櫻樹ノ木柵南端ヨリ正南二十四尺ニ日像繚旛一旛、橘樹ノ木柵南端ヨリ正面二十四尺ヲ距テテ月像繚旛一旛ヲ樹テ、頭八咫鳥形大錦旛。靈鷲形大

圖書寮

紫宸殿ノ儀

錦旛或ハ菊花章中錦旛・菊花章小錦旛・萬歳旛等ヲ樹テ、鉦鼓及ビ鉦等亦其ノ間ニ布列ス。如上諸般ノ鋪設既ニ訖リ、午後一時陸海軍儀仗兵、建禮・建春二門外ニ整列シ、所役ノ大禮使高等官等各所定ノ位次ニ就キ、庭上參役ノ者ハ第二朝集所廊下ノ左右ニ列立シ、暫時ニシテ參進、衛門ノ大禮使高等官三十名ハ承明・日華・月華・長樂・永安及ビ左右兩掖諸門ノ外掖壇下ノ本位ニ、司鉦・司鼓ノ者・威儀物捧持ノ者及ビ威儀ノ者等ハ日華・月華兩門ヨリ參進本位ニ就ク。其ノ配置概ネ賢所大前ノ儀ノ如シト雖モ、衛門ノ人員ハ五倍セリ。參役既ニ定位ニ就キ、

御帳臺

猶ホ

鏡業

鉦鼓ヲ以テ
號トナシ參
列員參進

出御

一時四十七分鉦鼓ヲ以テ號ト爲シ、威儀・參列諸員千數百名各所定ノ位次ニ就ケハ、載仁親王妃智惠子・依仁親王妃周子・博恭王妃經子・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・成久王妃房子内親王・恒久王妃昌子内親王ハ御帳臺前面ノ壇下ニ參進シ、又貞愛親王・載仁親王・依仁親王・博恭王・邦彦王・守正王・鳩彦王・稔彦王・成久王・恒久王・李坡公ハ高御座前面ノ壇下ニ參進シテ本位ニ就キ、次ニ皇太子裕仁親王參進アリ、親王ノ上班ニ就ク。此ノ時、侍從次長伯爵德川達孝出御ヲ奏請シ、三時八分御學問所ヲ出御、御服ハ黄檀染御袍ニシテ高御座

圖書寮

高御座ニ立
御

北階ヨリ昇御アリ、御帳内ノ御椅子ニ著カセラル。侍從日根野要吉郎・岡伯爵清水谷實英ハ捧持セル劍璽ヲ御帳内ノ案上ニ奉安シ、御笏捧持ノ侍從高辻宜麿ハ御笏ヲ奉リ、内大臣公爵大山巖ハ高御座ノ御帳外東北隅ニ候シ、侍從次長・侍從・侍從武官長・侍從武官ハ高御座ノ後面壇下ニ侍立ス。侍從子爵海江田幸吉ハ左ヨリ、侍從子爵松平慶民ハ右ヨリ分進シテ高御座ノ東西兩階ヨリ壇上ニ昇リ、先ツ正面、次ニ左右兩端ノ御帳ヲ奉ケレバ、御笏ヲ端シテ立御アラセラル。諸員即チ拜ス。次ニ御椅子ニ著カセラレ、内閣總理大臣伯爵大隈重信、殿上ノ班列ヲ

大正四年十一月

猶ホ

鏡業

3205 123

大正四年
勅

大正四年
勅

大正四年十一月

二二

勅語ヲ賜フ

出テ西階ヲ下リ、月華門ノ右側ヲ過ギ、左旋シテ承明門
 内ニ至リ、更ニ左折シテ威儀諸員ノ列前ヲ過ギ、南階ノ
 下ニ參進シ北面シテ立ツ。コノ時、天皇立御アリ、御笏
 ヲ侍從ニ授ケ、内大臣ノ捧グル勅語書ヲ取りテ宣ハセラ
 ル。即チ、
 朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ爰ニ即位ノ禮
 ヲ行ヒ普ク爾臣民ニ誥ク
 朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ列聖統ヲ紹キ裕
 ヲ垂レ天壤無窮ノ神靈ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ傳
 ヘ神器ヲ奉シテ八洲ニ臨ミ皇化ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫ス

圖書寮

大正四年
勅

大正四年十一月

二三

爾臣民世世相繼キ忠實公ニ奉ス雖ハ即チ君臣ニシテ
 情ハ猶父子ノコトク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ
 皇考維新ノ盛運ヲ啓キ開國ノ宏謨ヲ定メ祖訓ヲ紹述
 シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇圖ヲ恢弘シテ曠古ノ偉業ヲ
 樹ツ聖德四表ニ光被シ仁澤遐邇ニ霑洽ス
 朕今丕續ヲ續キ遺範ニ違ヒ内ハ邦基ヲ固クシテ永ク
 磐石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ敦クシテ共ニ和平ノ慶ニ
 賴ラムトス朕カ祖宗ニ負フ所極メテ重シ祖宗ノ神靈
 照鑑上ニ在リ朕夙夜兢兢天職ヲ全クセムコトヲ期ス
 朕ハ爾臣民ノ忠誠其ノ分ヲ守リ勵精其ノ業ニ從ヒ以

猶ホ

兢兢業業

大神記 卷之八

大神記 卷之八

大正四年十一月

二二

勅語ヲ賜フ

出テ西階ヲ下リ、月華門ノ右側ヲ過ギ、左旋シテ承明
 内ニ至リ、更ニ左折シテ威儀諸員ノ列前ヲ過ギ、兩階
 下ニ參進シ北面シテ立ツ。コノ時、天皇立御アリ、御
 ラ侍從ニ授ケ、内大臣ノ捧グル勅語書ヲ取りテ宣ハセ
 ル。即チ、
 朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ爰ニ即位ノ
 ヲ行ヒ普ク爾臣民ニ誥ク
 朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ列聖統ヲ紹キ
 ヲ垂レ天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ
 ヘ神器ヲ奉シテ八洲ニ臨ミ皇化ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫

圖書

大正四年十一月

二三

爾臣民世世相繼キ忠實公ニ奉ス終ハ即チ君臣ニシ
 情ハ猶父子ノコトク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ
 皇考維新ノ盛運ヲ啓キ開國ノ宏謨ヲ定メ祖訓ヲ紹
 シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇圖ヲ恢弘シテ曠古ノ偉業
 樹ツ聖德四表ニ光被シ仁澤遐邇ニ霑洽ス
 朕今丕續ヲ續キ遺範ニ遵ヒ内ハ邦基ヲ固クシテ永
 磐石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ致クシテ共ニ和平ノ慶
 賴ラムトス朕カ祖宗ニ負フ所極メテ重シ祖宗ノ神
 照鑑上ニ在リ朕夙夜兢兢天職ヲ全クセムコトヲ期
 朕ハ爾臣民ノ忠誠其ノ分ヲ守リ勵精其ノ業ニ從ヒ

勅語ヲ賜フ

出テ西階ヲ下リ、月華門ノ右側ヲ過ギ、左旋シテ承明門
 内ニ至リ、更ニ左折シテ威儀諸員ノ列前ヲ過ギ、南階ノ
 下ニ參進シ北面シテ立ツ。コノ時、天皇立御アリ、御笏
 ヲ侍從ニ授ケ、内大臣ノ捧グル勅語書ヲ取リテ宣ハセラ
 ル。即チ、
 朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ爰ニ即位ノ禮
 ヲ行ヒ普ク爾臣民ニ誥ク
 朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ列聖統ヲ紹キ裕
 ヲ垂レ天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ傳
 ヘ神器ヲ奉シテ八洲ニ臨ミ皇化ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫ス

圖書寮

大正四年十一月

爾臣民世世相繼キ忠實公ニ奉ス誓ハ即チ君臣ニシテ
 情ハ猶父子ノコトク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ
 皇考維新ノ盛運ヲ啓キ開國ノ安謨ヲ定メ祖訓ヲ紹述
 シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇圖ヲ恢弘シテ曠古ノ偉業ヲ
 樹ツ聖德四表ニ光被シ仁澤遐邇ニ霑洽ス
 朕今丕續ヲ續キ遺範ニ遵ヒ内ハ邦基ヲ固クシテ永ク
 磐石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ致クシテ共ニ和平ノ慶ニ
 賴ラムトス朕カ祖宗ニ負フ所極メテ重シ祖宗ノ神靈
 照鑑上ニ在リ朕夙夜兢兢天職ヲ全クセムコトヲ期ス
 朕ハ爾臣民ノ忠誠其ノ分ヲ守リ勳精其ノ業ニ從ヒ以

猶ホ

(官報校合)

兢兢

内閣總理大臣
奏
御
詞
ヲ
奏
ス

テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル庶幾クハ心ヲ同クシ力
ヲ戮セ倍々國光ヲ顯揚セムコトヲ爾臣民其レ克ク朕
カ意ヲ體セヨ

ト。コノ間、諸員最敬禮シ、殿庭肅トシテ聲ナク、唯玉
音ノ玲瓏タルヲ拜スルノミ。次ニ大隈内閣總理大臣鞠躬
如トシテ南階ヲ昇リ南榮ノ下ニ立チ度ミテ壽詞ヲ奏ス。

臣重信謹ミテ言ス伏シテ以ミルニ

陛下萬世一系ノ寶祚ヲ踐ミ乾綱ヲ攬リテ坤維ヲ總
ヘ爰ニ天津高御座ニ昇御シ即位ノ大禮ヲ行ヒ給フ遠
邇瞻仰シ億兆抃舞ス臣重信誠懼誠喜頓首頓首

圖
書
寮

伏シテ惟ミルニ

皇祖天壤無窮ノ神勅ヲ 皇孫ニ錫ヒテ八洲ニ君臨セ
シメ三種ノ 神器ヲ親授シテ五部ノ神ヲ臣事セシメ
給フ萬世不易ノ 皇基礎然トシテ爰ニ定マル

皇宗英武聖明

皇祖授國ノ 宸意ヲ體シ天業ヲ恢弘セムトシ皇師ヲ
帥キテ中洲ヲ平定シ

皇位ニ即キテ萬機ヲ親裁シ大ニ經綸ヲ行ヒ洪範ヲ
後聖ニ貽シ給フ而シテ

皇孫ニ奉事セシ諸部ノ子孫亦咸先志ヲ繼キテ皇業ヲ

皇
孫
ニ
奉
事
セ
シ
諸
部
ノ
子
孫
亦
咸
先
志
ヲ
繼
キ
テ
皇
業
ヲ

皇
孫
ニ
奉
事
セ
シ
諸
部
ノ
子
孫
亦
咸
先
志
ヲ
繼
キ
テ
皇
業
ヲ

カ
ヲ
戮
セ

テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル庶幾クハ心ヲ同クシ力
 ヲ戮セ倍々國光ヲ顯揚セムコトヲ爾臣民其レ克ク朕
 カ意ヲ體セヨ
 ト。コノ間、諸員最敬禮シ、殿庭肅トシテ聲ナク、唯玉
 音ノ玲瓏タルヲ拜スルノミ。次ニ大隈内閣總理大臣鞠躬
 如トシテ兩階ヲ昇リ兩榮ノ下ニ立チ虔ミテ壽詞ヲ奏ス。

臣重信謹ミテ言ス伏シテ以ミルニ
 陛下萬世一系ノ寶祚ヲ踐ミ乾綱ヲ攬リテ坤維ヲ總
 ヘ爰ニ天津高御座ニ昇御シ即位ノ大禮ヲ行ヒ給フ遠
 邇瞻仰シ億兆抃舞ス臣重信誠懽喜頓首頓首

内閣總理大
 臣壽詞ヲ奏
 ス

カヲ戮セ

伏シテ惟ミルニ

皇祖天壤無窮ノ神勅ヲ皇孫ニ錫ヒテ八洲ニ君臨セ
 シメ三種ノ神器ヲ親授シテ五部ノ神ヲ臣事セシメ
 給フ萬世不易ノ皇基確然トシテ爰ニ定マル

皇宗英武聖明

皇祖授國ノ宸意ヲ體シ天業ヲ恢弘セムトシ皇師ヲ
 帥キテ中洲ヲ平定シ

皇位ニ即キテ萬機ヲ親裁シ大ニ經綸ヲ行ヒ洪範ヲ
 後聖ニ貽シ給フ而シテ

皇孫ニ奉事セシ諸部ノ子孫亦咸先志ヲ繼キテ皇謨ヲ

翼贊ス億載一統ノ皇業蔚爾トシテ惟レ崇シ
 先帝登極ノ初復古ノ廟策ヲ定メテ維新ノ皇圖ヲ啓キ
 開國ノ鴻猷ヲ宣ヘテ萬邦ノ善長ヲ採リ藩封ノ舊制ヲ
 廢シテ一途ノ治化ヲ施シ不磨ノ大典ヲ布キテ立憲ノ
 政揆ヲ明ニシ兵制ヲ建定シテ陸海ノ戎備ヲ嚴整シ文
 教ヲ闡敷シテ黎元ノ智徳ヲ啓養シ産業ヲ殖興シテ厚
 生ノ道ヲ擴メ制度ヲ釐革シテ庶政ノ規ヲ宏ニシ給フ
 是ニ於テ乎國家ノ綱紀廓如トシテ光張シ邦運ノ旺盛
 駸駸トシテ止マス
 陛下 大統ヲ承ケ懿績ヲ續キ給ヒ

圖書寮

皇祖 皇宗暨 列聖ノ宏謨ニ遵ヒ丕基ヲ鞏固ニシ徳
 光ヲ宣揚シテ天職ヲ全クセムトシ宵衣旰食 寤衷ヲ
 勞シ給フ今大禮ノ吉辰ニ方リ明詔ヲ下シテ隆國ノ大
 本ヲ申明シ臣子ノ恒道ヲ提誨シ給フ 臣等感激已ム無
 シ
 伏シテ見ルニ
 陛下仁孝恭儉ノ天資ヲ以テ至隆ノ治ヲ闡リ給フ
 皇祖 皇宗暨 列聖ノ神佑
 陛下ノ聖躬ニ在リ皇業愈々昌ニシテ德澤益々浹ク頌
 音四海ニ洋溢セム 臣等夙夜勤勉力ヲ殫セ心ヲ同クシ忠

盞ノ節ヲ勵マシ報效ノ誠ヲ竭シ以テ 聖旨ニ答ヘ奉
 ラムコトヲ誓フ 臣等幸ニ盛儀ニ班列シ瑞雲ノ鳳殿ヲ
 繞リ仁風ノ錦幘ヲ馳スヲ望ミテ樂慶踴悅ノ至ニ任フ
 ル無シ 臣重信帝國臣民ニ代リ恭シク大禮ヲ賀シ千萬
 歳ノ壽ヲ上ツル 臣重信誠懽喜頓首頓首謹ミテ言ス
 奏シ畢リテ南階ヲ降り、更ニ歩ヲ進メ、左右萬歳謠ノ間
 ニ至リ、凝然佇立、北面シテ「天皇陛下萬歳」ヲ唱フレ
 バ、殿庭ノ參列諸員一齊ニ之ニ和シ、萬歳又萬歳ヲ唱フ。
 同時ニ儀仗兵ノ喇叭ハ嘯唳トシテ起リ、百一發ノ禮砲ハ
 殷々トシテ響キ、寺院ノ梵鐘。工場ノ汽笛等凡ソ聲アリ

萬歳ノ三唱

3205 129

入御

晉アルモノ何レモ節ニ合シテ之ニ應ゼザルナシ。時ニ三
 時三十分ナリ。畢リテ御椅子ニ著カセラレ、大隈内閣總
 理大臣本位ニ復スルニ及ビ、入御アラセラル。皇太子裕
 仁親王以下親王・同妃・王・同妃及ビ公竝ビニ參列諸員
 及ビ參役ノ大禮使職員等モ亦順次退下シ、大儀訖ル。時
 ニ四時十三分ナリ。

大禮記念章
ヲ賜フ

本儀訖リテ參列諸員及ビ關係大禮使職員ニ記念章ヲ賜
 フ。章ハ紅白ノ綬ヲ有シ銀圓形徑一寸、輪廓内表面上部
 ニ金菊御紋ヲ附シ、兩側縁ニ紫宸殿庭上ノ標徽タル櫻橋
 兩樹ト萬歳謠トヲ交架シ、裏面ニ大禮記念章。大正四年

十一月ノ文字ヲ四段ニ刻セリ。抑、記念章ハ本儀ニ參列セザリシ者ト雖モ、踐祚ノ式ニ召サレタル者。即位禮及ビ大嘗祭ノ式ニ召サレタル者。地方饗饋ヲ賜リタル者。大禮ノ事務及ビ大禮ニ伴フ要務ニ關與セル者ニ限り之ヲ賜ヒ、終身佩用ヲ允シ、更ニ其ノ子孫ヲシテ保存セシムルモノナリ。

次ニ是ノ日行ハセラレタル恩典ハ、第一贈位。敍位及ビ敍勳、第二養老賑恤、第三恩赦ナリ。仍チ大禮ノ光輝ト奎運ノ慶祥トヲ頒タセラルル聖旨ヲ以テ、忠ヲ君國ニ盡シ、力ヲ邦家ニ效シタル古今ノ勳勞者ニ贈位。敍位並

恩典

圖書寮

養老賑恤ノ
御沙汰

ビニ敍勳ヲ行ハセラレ、故從一位豐臣秀吉ニ正一位ヲ、同正二位三條西實隆ニ從一位ヲ、同正二位山科言繼ニ從一位ヲ追陞セラレ、又特旨ヲ以テ李王妃尹氏ヲ勳一等ニ敍シ寶冠章ヲ、勳一等李坡公ニ旭日桐花大綬章ヲ、從三位勳一等男爵澁澤榮一ニ旭日大綬章ヲ、正三位勳一等奧田養人ニ旭日大綬章ヲ、正三位勳二等男爵高木兼寛。正三位勳二等侯爵黒田長成ヲ各勳一等ニ敍シ瑞寶章ヲ授ケラレタルヲ始メ其ノ數實ニ四百九十八名ノ多キニ及ベリ。又養老賑恤ニ關シ、内閣總理大臣伯爵大隈重信ニ左ノ御沙汰アリ。

大正四年十一月

三一

養老杯

養老ヲ存シ毫ヲ聞フハ人ニ老ヲ教フル所以ナリ重ヲ教
 キ恩ヲ垂ルルハ民ノ乏シキヲ濟フヨリ先ナルハナシ
 茲ニ登極ノ初メニ方リ祖宗ノ遺範ヲ紹述シテ養老賑
 恤ノ典ヲ行フ其レ有司ニ諭シテ朕カ意ヲ宣布セシメ
 ヨ
 仍リテ養老ノ爲ニハ木杯及ビ酒肴料ヲ、賑恤ノ爲ニハ金
 百萬圓ヲ下賜セラレ、宮内大臣男爵波多野敬直ヨリ内閣
 總理大臣ニ移牒施行セシム。大隈内閣總理大臣ハ即日養
 老ノ儀ニ就キテ木杯及ビ酒肴料頒賜方ヲ定メタリ。恩賜
 杯ハ乾燥セル樺材ヲ用ヒテ極朱塗ト爲シ、絲縁ニ本金ヲ

圖書寮

賑恤金

施シ、内面中央ニハ録書ニテ縦ニ「養老」ノ二文字ヲ、
 背面ニ「大正四年大禮恩賜」ノ八字ヲ金書ス。此ノ時賜
 杯ノ聖恩ニ浴スル百歳以上ノ者ハ六百二十六名、九十歳
 以上ノ者ハ二萬千二百十五名、八十歳以上ノ者ハ三十四
 萬七千五百三十九名ニ達シ、之カ奉授式ハ各地ニ於テ鄭
 重ニ行ヘリ。又賑恤金ニ關シテハ同ジク頒賜方ヲ定メ、
 朝鮮・臺灣・關東州・樺太・北海道ヲ始メ各府縣ニ之ヲ
 頒賜シ、其ノ管理運用ニ關シテハ内務大臣及ビ地方局長
 訓令並ビニ通牒ヲ各地方長官ニ發シ、長ヘニ聖恩ニ報ジ
 奉ル途ヲ講ジ、有效適切ニ之ヲ使用スベキコトヲ勸奨ス。

恩赦ニ關スル詔書

減刑・懲戒
免除ニ關スル勅令

即位禮後一日賢所御神

コノ外大禮ニ關係アル府縣並ビニ市ニ對シ、特ニ下賜金ノ恩命アリ、更ニ恩赦ニ關スル詔アリ、左ノ如シ。

朕大禮ヲ行フニ當リ普ク仁慈ヲ布キ以テ朕カ慶福ヲ頒タムコトヲ念ヒ特ニ有司ニ命シテ恩赦ノ事ヲ行ハシム爾有衆其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

仍リテ更ニ勅令ヲ以テ減刑・懲戒懲罰ノ免除・出納官吏辨償責任ノ免除ニ關スル件ヲ、又軍令ヲ以テ陸海軍ニ於ケル懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ公布シ、即日施行セシム。

大禮記録・官報・侍從武官府
日誌・侍從職日記・典侍日記

十一日、即位禮後一日賢所御神樂ノ儀ヲ行ハセラル。

圖書寮

樂ノ儀

出御

此ノ儀ハ盛儀ノ終了ヲ皇祖ノ神靈ニ告ゲ、且ツ其ノ冥護ヲ謝シ給フノ聖意ニ出デシモノニシテ、古制ニ依レバ三夜間ニ亘リシヲ例トセシモ、明治天皇ノ御、一夜ニ止メラレシヲ以テ、登極令附式モ亦之ニ據リシナリ。即チ春興殿ノ鋪設全ク備ヒ、大禮使職員・掌典部員及ビ參列ノ載仁親王妃智惠子・依仁親王妃周子・博恭王妃經子・守正王妃伊都子・成久王妃房子内親王・恒久王妃昌子内親王以下諸員各其ノ本位ニ就クヤ、御東帶黃植染御袍ニテ午後三時五十二分御學問所ヲ出御アラセラル。御先導ノ式部長官伯爵戸田氏共、續キテ宮内大臣男爵波多野敬直、

侍従日根野要吉郎ハ寶劍ヲ捧持シテ前行シ、侍従伯爵清
 水谷實英神靈ヲ捧持シテ扈從ス。次ニ侍従子爵東園基愛・
 同男爵澤宣元・同落合爲誠縦列シ、侍従長公爵藤司源通
 ト侍従武官長内山小二郎・侍従大炊御門家政ト侍従武官
 關野謙吉ト相並ビ、次ニ侍従武官西義一アリ。貞愛親王・
 載仁親王・依仁親王・博恭王・邦彦王・守正王・鳩彦王・
 稔彦王・成久王・恒久王・李坡公及ビ内大臣公爵大山巖
 供奉ス。既ニ春興殿ニ入御アリテ南廂ニ進マセラルルヤ
 掌典長岩倉具綱ハ御扉ノ内ニ候シテ御先導シ、掌典立花
 寛篤・同長谷信道ハ外陣ニ候シテ御幌ヲ奉ゲ、内陣ノ御

御拜

座ニ著御、要吉郎・實英ハ寶劍・神靈ヲ内陣ノ案上ニ奉
 安シテ南廂ニ退下ス。供奉ノ皇族・公族ハ南廂西側ノ本
 位ニ、其ノ他ノ諸員ハ御後及ビ本殿後ノ階下ニ候スレバ、
 具綱ノ捧グル御玉串ヲ執ラセラレ、親シク御拜アリ、内
 掌典朝山儀子御鈴ヲ奉仕ス。寛篤・信道御幌ヲ奉ゲ、要
 吉郎・實英ハ内陣ニ參入、劍靈ヲ奉ジテ供奉ス。其ノ御
 列前ニ同ジ。斯クテ五時十五分入御アラセラル。尋イデ
 皇后御代拜鳩彦王妃允子内親王御拜アリ。次ニ皇族以下
 諸員拜禮シテ退下ス。六時御神樂ノ儀始マリ、翌十二日
 午前零時三十分ニ至リテ終ルヤ、人長、南階下ニ參進シ

入御

御神樂開始

御視ノ儀

テ柳ノ枝ヲ掌典園池實康ニ致シ、實康ハ之ヲ掌典男爵久我通保ニ附シテ御内儀ニ獻ジ本儀ヲ訖ル。時正ニ午前一時ナリ。尋イデ是ノ日行ハセラルル御儀ハ御視ニシテ、正午御視所ニ當テラレタル小御所ノ鋪設ヲ畢リ、午後一時四十分大禮使事務官市來政方ハ西廂ニ、掌典長岩倉具綱・掌典子爵園池實康・掌典佐伯有義ハ御下段ノ間ニ列立ス。一時五十七分具綱ノ奏請ニヨリ出御、侍從子爵東園基愛・侍從高辻宜麿・同男爵澤宣元・同大炊御門家政扈從ス。基愛・宜麿ハ上段ノ間ノ西北隅ニ列立シ、宣元・家政ハ各々捧持セル荒世・和世ノ御服ヲ中段西北隅ノ案

出御

荒世・和世ノ御服ヲ供ス

入御

上ニ安キテ退キ、西北ニ列立ス。此ノ間、諸員敬禮ス。次ニ具綱御前ニ進ミ天機ヲ候ヒ奉リテ本位ニ復シ、基愛荒世ノ御服ヲ供シ、之ヲ基愛ニ授ケサセラルルヲ更ニ實康ニ傳へ、實康ハ掌典補ニ命ジテ之ヲ南廂ノ假案ニ置カシム。次ニ宜麿和世ノ御服ヲ供シ、更ニ之ヲ宜麿ニ授ケサセラルルヲ同ジク南廂ノ假案ニ置ク。此ノ時有義ハ荒世ノ大廊ヲ執リ、具綱ヲ經テ宣元ニ傳へ、次ニ實康ハ和世ノ大廊ヲ執リ、具綱ヲ經テ家政ニ傳へテ供シタル後、更ニ之ヲ授ケサセラルルヲ假案ニ置ク。具綱御前ニ進ミテ拜シ、入御アリテ諸員退下シ其ノ儀訖ル。時ニ二時ナ

大嘗宮鎮祭・鎮魂ノ儀

リ。御服竝ビニ御座ハ大祀ノ儀ノ後、掌典之ヲ奉ジテ御贖物等ト併セテ宇治川ニ流セリ。大禮記録・官報・侍從・侍從武官府日誌・侍從職日記・侍從職日記

十三日、大嘗宮鎮祭・鎮魂ノ諸儀ヲ掌典部員竝ビニ大禮使職員ヲシテ行ハシム。大禮記録・官報・侍從武官府日誌・侍從職日記・侍從職日記

十四日、御一代一度ノ大祀ナル大嘗祭ノ當日ナリ。仍リテ潔齋アラセラレ、奉仕ノ諸員モ亦謹ミテ潔齋ス。此ノ朝大嘗祭當日賢所大御饌供進ノ儀アレド出御ナク、御代拜ヲ侍從子爵松平慶民ニ命ゼラル。次ニ大嘗祭ノ御儀ヲ叙スルニ先立テテ、各殿舎ニ於ケル鋪設ノ梗概ヲ述ブ

悠紀殿

ベシ。先ツ悠紀殿ニアリテハ外陣ノ南扉及ビ其ノ東方ノ壁ト西扉及ビ其ノ北方ノ壁トニ葦簾ヲ垂レ、内陣ノ入口及ビ外陣ニ於ケル南西ノ兩扉ニ御幌ヲ懸ケ、内陣ニハ黒木燈檮二基・白木燈臺一基ヲ配シ、神座竝ビニ御座ヲ設ケテ繪服・鹿服ヲ安キ、外陣ニハ御座竝ビニ劍置案ヲ安キ、皇族ノ御座十二帖・白木燈臺二基ヲ設ケ、南簀子ニハ皇族ノ假座ヲ、西簀子ニハ侍從伺候ノ座ヲ設ケ、南階ノ左右ニハ瓶ヲ伏セテ脂燭消火ノ用ニ充テタリ。主基殿ノ内外陣及ビ庭上ノ鋪設亦之ニ同ジ。又獨立殿ニ於テハ御座ノ間ニ於ケル南西北ノ各扉及ビ御湯殿ノ北扉ニ御幌

主基殿
獨立殿

頓宮

ヲ懸ケ、御座ノ間ニハ御冠・御祭服・御明衣・天羽衣・柳葩・劍璽案・經綳縁御疊・白綠薄疊・黃綠薄疊・大床子・二階棚・御手洗缶及ビ白木燈檯ヲ、御湯殿ニハ御湯槽波絹・御指湯・御指水・小紋縁御疊・床子及ビ白木燈臺ヲ備ヘ、西養子ニハ龍口ヲ、兩階前東側ニハ御菅蓋ヲ設ク。東ノ御間竝ビニ帳殿ハ皇后出御ナキヲ以テ鋪設セズ。次ニ頓宮ニ充テラレタル大宮御所ハ廻立殿ノ東北ニ當リ、渡廊下ヲ以テ相通ズ。便殿ハ御小座敷ヲ以テ之ニ充テ、西ノ間ヲ御召替所トシ、南ノ間ヲ御次ノ間トシ、中段・下段兩ノ間及ビ北ノ間等ヲ内閣總理大臣以下供奉

大嘗祭ノ本旨

白酒・黒酒

諸員ノ休所トシ、便殿ノ北方ニハ大忌御湯ヲ供スル御湯殿アリ。又其ノ北方ニ皇族休所アリ。便殿ノ御床ニハ屏風ヲ廻ラシテ劍璽奉安ノ所トシ、御間ニハ錦御毯代ヲ敷キテ其ノ上ニ御卓子・御椅子ヲ、御召替所ニハ御敷物ノ上ニ御卓子ヲ、御次ノ間ニハ屏風ヲ立テ、其ノ西ニ御清手水具ヲ設ケ、御車寄ニハ卓子・時計及ビ置暖爐等ヲ備フ。猶ホ大嘗祭ノ本旨ハ天皇親ヲ新穀ヲ以テ皇祖及ビ天神地祇ヲ請饗アラセラレ、且ツ之ヲ開食サルルニ在ルヲ以テ、神饌及ビ神酒ハ實ニ請饗ノ主眼タリ。神酒トハ悠紀・主基兩殿ニ用ヒラルル白酒・黒酒ヲ指シ、神饌トハ

庭積机代物

庭積机代物ヲ云フ。大嘗祭ニ庭積机代物ヲ奉奠スルハ明治四年ニ始マリ、當時ハ鳥・魚介・海菜・野菜・果物等凡ソ十二臺ニ止マリシガ、今次ハ更ニ其ノ趣旨ヲ擴張シ、新嘗祭例ニ準ジテ各地人民ノ米・粟供納ヲ聽許シ、又各地ニ特有ナル蔬果・魚介ノ類ヲモ之ニ充テシメラル。是ノ日早且ヨリ大禮使職員竝ビニ掌典部員等大嘗宮ヲ裝飾シ、午後三時掛員各々其ノ位次ニ就クヤ、四時舊仙洞御所正門ヲ開キ、皇宮警部之ヲ警固シ、陸海軍儀仗兵ハ門外ニ整列シ、尋イデ衛門二十人^名本位ニ就キ、三時三十分掌典長岩倉具綱、掌典子爵園池實康・掌典佐伯有義

大嘗宮ヲ裝飾

神座ヲ奉安

燈火燦火ヲ點ズ

參列諸員ノ參進

及ビ掌典補二人^名ヲ率キテ悠紀・主基兩殿ニ參入シ、恭シク神座ヲ奉安シ、繪服・籠服ヲ奠ス。五時十分佐伯掌典ハ掌典補ヲ率キテ兩殿ニ齋火ノ燈火燦火ヲ點シ、火炬手ハ各神門外ノ庭燎ヲ燒キ、威儀十二人^名兩神門内ニ參進シテ各々其ノ本位ニ就ク。次ニ大勳位伯爵東郷平八郎以下參列諸員參進シテ左右ノ幄舎ニ就キ、内閣總理大臣伯爵大隈重信以下各大臣等及ビ侍從武官長内山小二郎以下侍從武官等ハ順宮ヨリ參進シテ悠紀小忌幄舎ニ先著ス。式部官松井修徳ノ前導ニテ博恭王妃經子・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・成久王妃房子内親王・恒久王妃昌

小堀

小堀

諸幄舎内ノ
電燈ヲ滅ス

順宮出御大
忌御湯ノ儀

稻舂ノ儀

子内親王順宮ヨリ參進シテ殿外小忌幄舎ニ著牀アリ。此
 處ニ於テ諸幄舎内ノ電燈一齊ニ滅セラレ、夜色方ニ昏黒
 疎星耿トシテ樹隙ヲ射、唯庭燎ニ時々薪ヲ添ヘ閃々タル
 火光、一面ノ白砂ニ映シ、柴垣ヲ隔テテ殿舎巍々トシテ
 聳エ、神門ノ外ニハ衛門官人ノ佇立スルヲ隱見スルノミ、
 既ニシテ佐伯掌典ハ掌典補二人^名竝ビニ樂官・女官ヲ率キ
 テ悠紀稻舂舎ニ參入シ、稻舂歌ト共ニ女官稻舂ノ儀ヲ行
 フ。

是ヨリ先、天皇ハ御直衣ニテ午後四時三十分京都皇宮
 御出門、順宮ニ出御アラセラレ、先ツ大忌御湯ノ儀アリ、

圖書寮

御祭服ヲ召
ス

渡
御

尋イデ侍從長公爵鷹司兼通ノ奏請ニテ出御、廻立殿ニ渡
 御アラセラフル。侍從男爵澤宣元先導シ、同伯爵清水谷實
 英・同原恒太郎劍璽ヲ奉シ、同子爵東園基愛・同大炊御
 門家政ハ御裾ヲ奉仕シ、侍從長公爵鷹司兼通・侍從子爵
 松浦靖・侍從高辻宜麿御後ニ候ス。御座著御ノ後、小忌
 御湯ノ儀ヲ濟マセラレ、御祭服ヲ召シ、御手ヲ淨メサセ
 ラル。七時三十六分式部長官伯爵戸田氏共參進シテ出御
 ヲ奏請ス。侍從ノ稱セル菅蓋ノ下ニ立タセラレ、脂燭ノ
 照ラセル道ニ遵ヒ、徐ニ廻立殿ヨリ北神門・中垣ノ御門
 ヲ經テ悠紀殿ニ渡御アラセラル。侍從代宮内事務官日野

とれとれとれ

大正四年十一月

四六

諸幄舎内ノ電燈ヲ滅ス

頓宮出御大忌御湯ノ儀

稻春ノ儀

子内親王頓宮ヨリ参進シテ殿外小忌幄舎ニ著牀アリ。處ニ於テ諸幄舎内ノ電燈一齊ニ滅セラレ、夜色方ニ疎星耿トシテ樹隙ヲ射、唯庭燎ニ時々薪ヲ添ヘ閃々ト火光、一面ノ白砂ニ映シ、柴垣ヲ隔テテ殿舎巍々ト聳エ、神門ノ外ニハ衛門官人ノ佇立スルヲ隱見スル。既ニシテ佐伯掌典ハ掌典補二人並ビニ樂官・女官ヲ率テ悠紀稻春舎ニ参入シ、稻春歌ト共ニ女官稻春ノ儀ヲフ。

是ヨリ先、天皇ハ御直衣ニテ午後四時三十分京都自御出門、頓宮ニ出御アラセラレ、先ツ大忌御湯ノ儀ヲ

圖書

御祭服ヲ付ス

渡御

大正四年十一月

四七

尊イデ侍従長公爵鷹司源通ノ奏請ニテ出御、廻立殿ニ御アラセラル。侍従男爵澤宣元先導シ、同伯爵清水公英・同原恒太郎劍璽ヲ奉ジ、同子爵東園基愛・同大内門家政ハ御裾ヲ奉仕シ、侍従長公爵鷹司源通・侍従子松浦靖・侍従高辻宜麿御後ニ候ス。御座著御ノ後、御湯ノ儀ヲ済マセラレ、御祭服ヲ召シ、御手ヲ淨メラル。七時三十六分式部長官伯爵戸田氏共参進シテ出ヲ奏請ス。侍従ノ著セル菅蓋ノ下ニ立タセラレ、脂照ラセル道ニ進ヒ、徐ニ廻立殿ヨリ北神門・中垣ノヲ經テ悠紀殿ニ渡御アラセラル。侍従代官内事務官

悠紀殿ニ昇

悠紀殿ニ昇

西資博・同式部官慈光寺仲敏ハ劍璽ノ御前ニアリテ葉薦ヲ布單ノ上ニ舒ヘ、侍從代宮内事務官子爵有馬純文・同主獵官伯爵坊城俊良ハ御後ニ在リテ之ヲ卷キ、隨ツテ舒フレバ隨ツテ卷ク。掌典長岩倉具綱悠紀殿兩階ノ下ニ候シ、掌典次長公爵九條道實ハ掌典園池實康ト共ニ外陣ニ參入シテ南御帳ノ左右ニ候シ、式部官鍋島精次郎・同蜂須賀正韶ハ脂燭ヲ執リテ兩階ノ左右ニ立テ、御列進ミテ悠紀殿ノ前ニ到レバ、實英・恒太郎先ツ兩階ヨリ外陣ニ參入シテ劍璽ヲ案上ニ奉安シ、退キテ西簀子ニ候ス。是イデ兩階ヲ昇御、外陣ノ御座ニ著御アラセラル。其愛ハ

圖書寮

悠紀・主基
地方風俗歌

西簀子ニ、源通・具綱ハ兩簀子ニ候シ、貞愛親王・博恭王・邦彦王・守正王・鳩彦王・稔彦王・成久王・恒久王・李坡公以下供奉ノ者小忌帳舎ニ就ク。樂官國柄ノ古風ヲ奏シ、次ニ悠紀地方ノ風俗歌ヲ奏ス。風俗歌ハ曩ニ宮内省御用掛子爵黒田清綱命ヲ奉ジテ詠進スル所ニシテ左ノ如シ。

音聞山

貴美可與遠知世毛登余波布眞津閑勢乃於度能當衣聲
奴憶刀幾幾乃也萬

是即チ悠紀地方風俗歌ニシテ、猶ホ主基地方ノモノハ御

シ
腰
子
祭

歌所御用掛子入江爲守命ヲ奉ジテ詠進スル所ナリ。歌詞ニ云フ、

鼓 岡

久毛井滿天多加九飛飛歌舞佐登比登濃津津見賀遠可
仁千代與波布古惠

歌終ルニ及ビ、親王・王・公族ハ小忌帳舎ニ於テ、各妃ハ殿外小忌帳舎ニ於テ、諸員ハ其ノ本位ニ於テ拜禮ス。訖リテ八時五分親王・王小忌帳舎ヨリ參進シテ悠紀殿ノ南簀子東方ノ座ニ就クニ當リ、膳屋ヨリ南廊ニ神饌ヲ行立ス。脂燭先ツ南階ノ下ニ至リ、掌典補一名東側ニ退キ

警蹕ヲ稱フ

テ西面シ、又一人名西側ニ退キテ東面シ、次ニ削木ヲ執レル掌典子爵石野基道兩階ノ下ニ進ミテ警蹕ヲ稱ヘ、諸員敬禮シ、樂官直ニ神樂歌ヲ始ム。内陣ノ御座ニ著御アラセラレ、具綱外陣ニ參入シテ奉侍ス。親王・王ハ外陣東側ノ座ニ著キ、瀬通ハ外陣御座ノ西方ニ候シ、國柄及ビ風俗歌奏樂ノ樂官退下ス。神饌行立中ノ基道ハ警蹕ヲ稱ヘシ後、西側ニ退キテ掌典補ノ南方ニ立テ、掌典北郷久政以下順次之ニ次グ。訖リテ陪膳女官西西子・後取女官生源寺政子外陣ニ參入スルヤ、久政簀子ニ進ミ、海老鱒鹽槽ヲ兩女官ニ傳ヘテ本位ニ復シ、次ニ寬簀子ニ進ミ

神饌行立

ノ膳子

御直會

テ多志良加ヲ後取女官ニ傳フ。陪膳女官ハ御座ニ參進シテ御手水ヲ供シ、寬簾ハ後取女官ヨリ多志良加ヲ受ケテ本位ニ復ス。次ニ久政再ビ簀子ニ進ミ、兩女官ヨリ海老鱈盃以下ヲ受ケテ本位ニ復セバ、辻竹子以下各女官ハ相繼ギテ外陣ニ參入ス。次ニ掌典町尻量弘以下順次簀子ニ進ミ、其ノ捧持スル神饌ヲ外陣ノ女官ニ傳ヘテ本位ニ復ス。女官ハ受クルニ從ヒテ之ヲ後取女官ニ傳ヘ、後取女官ハ更ニ之ヲ陪膳女官ニ進ム。十時十二分親供訖リテ諸員敬禮ノ間ニ御拜、御告文ヲ奏シ給ヒ、次ニ御直會ノ儀アリテ親シク御飯並ビニ御酒ヲ聞食召サル。訖リテ神

圖書寮

悠紀殿ノ儀

主基殿ノ儀

饌ヲ撤ス。其ノ次第ハ供進ト正ニ相反ス。十一時三分後取陪膳兩女官ハ外陣ヨリ退下シテ本位ニ就キ、脂燭ヲ秉レル掌典補ハ相並ビテ前行シ、諸員之ニ續キテ膳屋ニ退下シ、樂官ハ神樂歌ヲ止ム。天皇、兩階ヲ降ラセラレ、親王以下扈從シ、廻立殿ヨリ順宮ニ還御アリ。御列次ハ進御ノ時ノ如シ。是ニ於テ各宮妃ヲ始メ先著供奉員。參列諸員。庭上參役。威儀等退下ス。時ニ十一時二十分ナリ。本儀約五時間ノ久シキニ亘レルヲ以テ、主基殿ノ儀ヲ行ハセラルルニ先ダチテ御休憩アラセラル。尋イデ十五日午前一時五分主基殿ノ儀ヲ始メ給フ。其

兩殿ノ儀畢
リテ遷幸

神宮奉幣ノ
儀

皇靈殿・神
殿奉幣ノ儀

全國神社奉
告祭

ノ儀總ヘテ悠紀殿ニ於ケルガ如シ。一時五十四分出御、
神饌ヲ親供アラセラレ、四時三十分御拜禮アリテ御告文
ヲ奏セラレ、五時三十五分頓宮ニ遷御、直ニ京都皇宮ニ
遷幸アラセラル。時ニ六時二分ナリ。

猶ホ是ヨリ先、十二日小御所ニ於テ勅使發遣ノ儀ヲ行
ハセラレ、神宮ニ奉幣男爵久我通保ヲ勅使トシテ參向セ
シメラレタルヲ以テ、十四日大嘗祭ノ日神宮ニテ奉幣ノ
儀アリ。又皇靈殿・神殿ニハ侍從日根野要吉郎ヲ勅使ト
シテ參向セシメ同ジク奉幣ノ儀ヲ行ハシメ、更ニ全國神
社ニハ奉告祭ヲ行ハシメ幣帛神饌料ヲ供セラル。大體記
官

饗宴場概要

報・侍從武官府日誌・
侍從職日記・典侍日記

十六日、即位・大嘗祭ノ兩儀殿肅ニ終リタルヲ以テ、
大饗ヲ開カセラル。其ノ場所ハ登極令ニ豐樂殿トアレド、
今回ハ二條離宮ニ丸ノ北方大手門内ノ松林ヲ拓キテ新
造シ、之ニ代ヘシメラル。其ノ設備ハ大別シテ食堂及ビ
舞樂場ノ二トナス。饗宴場ハ方四十一間、千六百八十餘
坪ヲ有シ、中央ニ方十四間ノ舞樂場ヲ設ケ、幅二間ノ入
側ヲ附シ、其ノ周圍ヲ食堂トシ、更ニ匝ラスニ幅二間ノ
廊下ヲ以テシ、南方ニハ大渡廊下ヲ設ケテ宮殿蘇鐵ノ間
ニ連リ、同廊下ノ中央ヨリ更ニ東西ニ向ヒテ渡廊下ヲ設

大正四年十一月

兩殿ノ儀畢
リテ遷幸

神宮奉幣ノ
儀

皇靈殿・神
殿奉幣ノ儀

全國神社奉
告祭

ノ儀總ヘテ悠紀殿ニ於ケルカ如シ。一時五十四分出御、
神饌ヲ親供アラセラルレ、四時三十分御拜禮アリテ御告文
ヲ奏セラレ、五時三十五分順宮ニ遷御、直ニ京都皇宮ニ
遷幸アラセラル。時ニ六時二分ナリ。

猶ホ是ヨリ先、十二日小御所ニ於テ勅使發遣ノ儀ヲ行
ハセラレ、神宮ニ奉幣ノ儀ヲ行ハシメ、更ニ全國神
社ニハ奉告祭ヲ行ハシメ幣帛神饌料ヲ供セラル。大體記
官

饗宴場概要

報・侍從武官府日誌・
侍從職日記・典侍日記

十六日、即位・大嘗祭ノ兩儀殿肅ニ終リタルヲ以テ、
大饗ヲ開カセラル。其ノ場所ハ登極令ニ豐樂殿トアレド、
今回ハ二條離宮ニ丸ノ北方大手門内ノ松林ヲ拓キテ新
造シ、之ニ代ヘシメラル。其ノ設備ハ大別シテ食堂及ビ
舞樂場ノ二トナス。饗宴場ハ方四十一間、千六百八十餘
坪ヲ有シ、中央ニ方十四間ノ舞樂場ヲ設ケ、幅二間ノ入
側ヲ附シ、其ノ周圍ヲ食堂トシ、更ニ匝ラスニ幅二間ノ
廊下ヲ以テシ、南方ニハ大渡廊下ヲ設ケテ宮殿蘇鐵ノ間
ニ連リ、同廊下ノ中央ヨリ更ニ東西ニ向ヒテ渡廊下ヲ設

千年山水ノ
錦軟障・悠
紀主基風俗
屏風

ケ、西ハ便殿、東ハ元臺所ナル大禮使事務所及ビ第二車
寄ニ通ジ、北方ニハ附立場・調理所以下八棟ヲ設ケ、渡
廊下十八箇所ヲ添フ。外ニ附帶設備トシテ二ノ丸宮殿ノ
各室ヲ以テ休所ニ充テ、増築又ハ變更ニ依リテ車寄・附
屬豫備室、其ノ他ヲ設ケ、殿内ノ牀ニハ總テ絨毯ヲ敷ケ
リ。舞樂場周圍ノ入側ト食堂トノ境界ニハ柱間ニ簾ヲ垂
レ、其ノ外側及ビ食堂ノ四面ニ朽木形壁代ヲ懸グ。玉座
ハ場内北方ニ設ケラレ、其ノ後方ニ水墨千年松山水ノ錦
軟障ヲ掛ケ、又悠紀・主基兩地方風俗歌ノ屏風各一雙ヲ
立テ、其ノ前方及ビ舞樂場ノ左右兩側ヲ陪宴諸員ノ席ト

圖書寮

玉座

シ、四方ノ廊下ニハ處々ニ盆栽等ヲ排置ス。御宴中、上
記境界ノ簾並ビニ壁代ヲ舉ゲ、食堂ノ兩端ハ左右共第四
班ニ沿ヒテ壁代ヲ懸グ。天井ハ構造彩色共ニ華麗ヲ極メ、
天光線ヲ爲シテ華紋アル玻璃ヲ透射ス。又玉座ハ長サ十
尺、幅七尺六寸、高サ五寸ノ御毯代臺ノ上ニ据エ、長サ
九尺四寸・幅七尺ノ錦ノ御毯代ヲ敷キ、同一ノ錦ニテ包
ミタル菱形紙ヲ其ノ四隅ニ施シ、朱塗ノ御臺盤ヲ立テ朱
塗ノ御吳椅子ヲ置ク。玉座ノ東ニ五尺ヲ距テ長サ五尺
幅四尺高サ五寸ノ御毯代臺ヲ設ケ、其ノ上ニ長サ四尺幅
三尺四寸玉座ト等シキ錦ノ御毯代ヲ敷キ、菱形紙ヲ其ノ

舞樂場

四隅ニ施シ、劍臺案ヲ据ウル料トス。玉座ノ前面ニハ紅地錦ノ御敷物ヲ敷キ、東方ニハ鷲足机ヲ設ケテ御插華奉供ノ料トシ、西方ニハ白木机ヲ置キテ浮織模様ノ白純子ヲ以テ之ヲ覆ヒ、白酒黒酒奉供ノ平居瓶二箇ヲ載ス。又玉座ノ後方西北隅ニハ朱塗丸形御帽臺ヲ備フ。次ニ舞樂場ハ東北西ノ三面ヲ開キ、中央ニ牀ヲ下ゲ、方二丈六尺一寸ノ舞臺ヲ設ケ、後方左右ニ鼙太鼓各一基、更ニ其ノ後方左右ニ鉦鼓各一基ヲ置キ、其ノ南方入側ニ沿ヒテ東西十八尺南北十一尺ノ樂官幄ヲ設ク。舞臺ニ萌黄色ノ地敷ヲ布キ、南北兩面ノ中央ヲ除キテ四面ニ朱塗ノ勾欄ヲ

大遷第一日ノ儀

匝ラシ、其ノ下部ニ水引幕ヲ張リテ總角ヲ懸ゲ、南北兩面ノ中央ニ木階ヲ附ス。鼙太鼓及ビ鉦鼓ノ臺ニモ亦水引幕ヲ張リテ總角ヲ懸ゲ、鼙太鼓臺ノ兩面ニハ木階ヲ附ス。樂官幄ハ前面左右ニ朱塗ノ勾欄ヲ設ケ、東西ニハ木階ヲ附シテ昇降ニ便シ、幄ノ後方ニハ窠ノ幕ヲ張リテ樂器ヲ排列ス。幄ノ左右ヨリ饗宴場南方廣間大渡廊下ニ至ル牀下ニハ下行道ヲ造リ、是ヨリ樂官休所ニ至ル間ニハ天皇ノ廊下ヲ設ケテ舞姫・樂官ノ道路トス。天皇、御正裝ニテ午前十時五十分京都皇宮御出門、二條離宮ニ行幸、十一時十五分御車寄ニ著御アラセラレ、

御 饗宴場ニ出

式部長官伯爵戸田氏共ノ御先導ニテ便殿ニ入御、侍従子爵東園基愛ハ寶劍ヲ、侍従原恒太郎ハ神璽ヲ捧持ス。召サレタル八百九十七名ノ參進訖リ、午後零時十分饗宴場ニ出御アリ。式部官子爵稻葉正繩・式部官上野季三郎・式部長官伯爵戸田氏共・宮内大臣男爵波多野敬直前行シ、侍従子爵東園基愛ハ寶劍ヲ、侍従伯爵清水谷實英ハ神璽ヲ奉ジ、侍従長公爵鷹司熙通・侍従武官長内山小二郎・侍従原恒太郎・同大炊御門家政・同子爵黒田長敬・侍従武官松村純一・同田中重・同西義一・内大臣公爵大山巖扈從ス。左右ニ列立セル大勳位以下及ビ外國使臣夫妻

勅語ヲ賜フ

ハ通御ニ際シ拜謁ノ後扈從ス。饗宴場西方ノ廊下ヲ進御ノ時、式部官警蹕ヲ稱フ。玉座ニ著カセラレ、基愛・實英劍璽ヲ案上ニ奉安シ、皇族以下扈從ノ諸員各自ノ席ニ列立ス。尋イテ零時十五分左ノ勅語ヲ賜フ。

朕大禮ノ典儀ヲ舉行シ愛ニ饗宴ヲ開キ各國代表者竝ニ諸大臣等ト歡ヲ共ニスルコトヲ得ルハ朕ノ太タ喜悅スル所ナリ茲ニ友邦ノ君主及大統領ノ健康ヲ祝シ併セテ交際ノ益ニ親密ナラムコトヲ望ム

滿場ノ諸員最敬禮ヲナシ、内閣總理大臣伯爵大隈重信謹ミテ御前ニ進ミ、群臣ヲ代表シテ奉答スル所アリ。續キ

内閣總理大臣奉答

外國代表奉答

テ外國使臣ノ首席タル露西亞國特派大使にこらす。まれ
 ぐすきー・まれぐのつち、外國使臣ヲ代表シテ奉答スル
 處アリ。訖ルヤ御椅子ニ著カセラレ、皇族以下著席ス。
 白酒・黒酒ヲ供セシメ御膳・御酒ニ及ビ、皇族以下諸員
 ニ饗饌ヲ賜フ。尋イデ式部長官伯爵戸田氏共、班列ヲ離
 レテ獻物ノ前ニ進ミ、玉座ニ面シテ、順次ニ悠紀・主基
 兩地方獻物ノ目錄ヲ奏ス。之ニ續キテ久米舞・悠紀地方
 ノ風俗舞及ビ主基地方ノ風俗舞アリ。畢リテ大歌奉仕ノ
 歌人參進本位ニ就キ、五節ノ舞姫舞臺ニ昇リ、大歌ノ發
 聲ヲ號ト爲シ舞ヲ始ム。多忠行・多久毎・辻英吉・安倍

饗宴

五節舞・舞樂ノ次第

奉頼ノ諸樂師ノ奉仕セル久米舞ノ勇壯ナル、多忠基・多
 忠元・奥好察・岡廣高・多忠告・芝葛絃・奥好英・窪兼
 雅ノ諸樂師ノ奉仕セル風俗舞ノ古樸ナル、清閑寺歌子・
 萩原種子・石野和子・高倉則子・舟橋厚子・持明院安子
 等舞姫ノ奉仕セル五節舞ノ優婉ナル、一々其ノ趣ヲ異ニ
 ス。舞樂既ニ終リ、天皇ニ挿華ヲ供シ奉ル。尋イデ參列
 諸員ニ之ヲ賜フ。午後一時三十六分御座ヲ立タセラレ便
 殿ニ入御、尋イデ二時五分還幸アラセラル。是ノ日ノ饗
 宴ヲ大饗第一日ト稱ス。翌十七日大饗第二日及ビ夜宴ノ
 儀ヲ行ハセラル。第一日ノ饗宴ハ明治天皇大嘗祭後ノ節

大御第二日

會式ニ則リテ古式ノ獻立ヲ用ヒサセラレシガ、第二日ハ洋式晚餐ト定メサセラル。即チ十七日ニハ午後四時五十分京都皇宮御出門、再ヒ二條離宮ニ行幸アリ、五時十五分御車寄ニ著御、式部長官伯爵戸田氏共ノ御先導ニテ便殿ニ入御、六時饗宴場ノ準備成リテ出御、諸員敬禮ノ間ニ玉座ニ著カセラレ、饗宴ヲ始メ給フ。式部職樂隊ハ樂長芝島鎮指揮ノ下ニ洋樂ヲ奏ス。御宴半ニシテ皇族以下陪食ノ諸員ニ記念ノ銀製菓子器ヲ賜フ。七時四十分便殿ニ入御アツセラル。九時二十八分舞樂場ニ出御、夜宴ノ儀ヲ行ハセラル。夜宴ハ先ツ舞樂ヲ以テ始マリ、後、賜

饗宴場ニ出御

便殿ニ入御

夜宴ノ儀

舞樂場ニ出御

饗ニ移ル。御座ニ著御アツセラルルヤ、先ツ萬歲樂アリ、太平樂之ニ次ギ、前者ハ古ヘ聖王位ニ在リ、鳳凰來儀シテ萬歲ヲ唱ヘシニ因リ、其ノ聲ヲ象リテ此ノ曲ヲ譜シ、其ノ姿ヲ移シテ此ノ舞ヲ作レリト云ヒ、平調ノ中曲ニシテ、舞態ノ閑雅ト氣品ノ崇高トヲ以テ知ラレ、後者ハ唐ノ太宗ノ皇帝破陣樂ヨリ出デシ者ノ如ク、撥亂反正ノ意ヲ寓シ、大食調ノ中曲ニテ甲冑ヲ撥シテ突撃スル狀、殊ニ勇壯ヲ極メ、一文一武相配シテ恰モ好ク、加フルニ裝束ノ麗ト樂聲ノ美トアリ、二千ノ陪覽者ハ凝視シテ唯醉ヘルガ如ク、天顏モ亦喜容ヲ拜ス。舞樂既ニ畢リ、十時

夜宴ニ出御

十九分便殿ニ入御、尋イデ夜宴ニ移ルヲ以テ十時五十分
 食堂ニ陪宴諸員ノ參進畢リテ再ビ出御アリ。時ニ十一時
 四十分ナリ。歐洲管絃樂ノ演奏アリ。座上ノ諸員ハ皆大
 禮服ニ勳章ヲ佩ビ、婦人ハ多ク桂袴ヲ著ス。御宴中ニシ
 テ皇族以下陪宴諸員ニ記念ノ銀製菓子器ヲ賜フ。諸員敬
 禮中ニ便殿ニ入御アラセラル。時ニ十八日午前零時ヲ過
 キ、零時五十分京都皇宮ニ還幸アラセラル。皇族以下諸
 員モ亦續キテ退下ス。斯クテ大饗ヲ敍シ終ルニ當リ附言
 スベキ事アリ。即チ地方饗宴是ナリ。蓋シ大饗ニ召サル
 ベキ者ノ資格員數ニハ自ラ限アルヲ以テ、餘ノ有資格者

入御・還幸

地方饗宴

神宮親臨ノ
爲メ伊勢ニ
行幸

ノ爲ニ、特ニ大饗第一日ノ日ヲ以テ所在地ニ於テ饗饌ヲ
 賜ヒテ、歡ヲ頒タセラルルノ聖慮ニ出ツル饗宴ヲ地方饗
 饌ト稱ス。召サレタル者實ニ十一萬九千五百七十二名ニ
 及ベリ。大禮記録・官報・侍從武官府
 日誌・侍從職日記・典侍日記
 十九日、即位禮及ビ大嘗祭既ニ舉行セラレ大饗モ亦終
 リシヲ以テ、之ヲ皇祖ニ告ゲサセラルル爲メ神宮ニ行幸
 アラセラル。即チ午前八時三十分京都皇宮御出門、建禮
 門ヨリ御苑堺町門ヲ出テ順路ヲ經テ京都停車場ニ著御、
 九時御發車、午後一時四十五分山田停車場ニ御下車、直
 ニ行在所タル神宮司廳ニ入ラセラレ駐蹕アラセラル。大禮

記録・官報・侍從武官府日誌・侍從職日記・典侍日記・大禮行幸記（三重縣）

二十日、早且豐受大神宮ニ於テハ御垣内ヲ裝飾シ、先ツ大御饌供進ノ儀・修祓ノ儀ヲ行フ。次ニ重々御門ヲ開キ、祭主邦彦王以下中重石壺ノ版ニ著キ、奏樂ノ裡ニ神饌ヲ供シ、初獻ノ後、大宮司子爵三室戸和光、祝詞ヲ奏シ畢リテ諸員奉拜ス。更ニ奏樂ノ間ニ二獻・三獻畢リ、其ノ度毎ニ諸員奉拜スルコト初獻ノ如シ。樂ハ太平ノ序破急ヲ順次ニ奏シ、修享ノ樂ヲ爲シ、次ニ奏樂裡ニ神饌ヲ撤シ、重々御門ヲ閉シテ退下ス。午前七時掌典園池實康幣物ヲ奉ジ、祭主以下之ニ次ギ、第二鳥居ニ於テ修祓

ノ後、四丈殿ニ於テ點檢ノ儀アリ。畢リテ權禰宜之ヲ昇キ、掌典補、其ノ後ニ隨ヒテ内院ニ參入シ、掌典・祭主以下續キテ中重ノ版ニ就ク。座定リテ祭主以下内院ニ參入スレハ三室戸大宮司ハ少宮司今井清彦ト共ニ奏樂裡ニ御扉ヲ開キ、諸員敬禮、臨時神宮祭主邦彦王殿内ニ伺候ノ後、和光以下幣物ヲ殿内ニ奉奠シ、之ヲ掌典ニ反命ノ後、諸員復版ス。次ニ和光、内玉垣南御門前ニ進ミテ祝詞ヲ奏シ、畢レバ邦彦王以下和光等ハ内院ニ參入シ、禰宜慶光院利敬ハ内玉垣南御門御幌ニ、禰宜金原利道ハ外玉垣南御門御幌ニ、禰宜山下三次・同中西健郎ハ外玉垣

南御門外西側ニ候シ、自餘ノ諸員ハ退下ス。尋イデ定刻
 至レバ禰宜江見清風・同井上頼文ハ御幌ヲ舉ケ御座ヲ大
 床ニ設ケ、祭主ハ殿内ニ、和光・清彦・清風ハ階下西側
 ニ、頼文ハ瑞垣西御門ノ御幌ニ候ス。次ニ掌典長岩倉具
 綱ハ内玉垣南御門内西側ニ、侍從男爵澤宣元・侍從落合
 爲誠ハ東側ニ候シ、貞愛親王・鳩彦王・内大臣公爵大山
 巖・宮内大臣男爵波多野敬直・式部長官伯爵戸田氏共・
 侍從伯爵清水谷實英・侍從原恒太郎・同大炊御門家政・
 同高辻宜麿・同子爵黒田長敬等ハ板垣南御門外ニ先著、
 儀仗兵ハ御門外參道ノ兩側ニ整列シ、出御ヲ待テ奉ル。

圖書寮

頓宮ニ於テ
御潔齋

御下乘

御拜

是ヨリ先、天皇、午前九時行在所ヲ御出門、三十分ニシ
 テ頓宮ニ著御、御潔齋ノ後、黄櫨染御袍ニテ、十時五十
 五分馬車ニ乗御、頓宮ヲ出テサセラレ、板垣南御門外ニ
 於テ御下乘、外玉垣南御門外ニテ御修祓アリ。禰宜、大
 麻及ヒ御鹽ヲ奉仕ス。次ニ内玉垣南御門内ニ於テ御手水
 アリ、宣元・爲誠之ヲ奉仕ス。畢リテ内院ニ進御、内玉
 垣南御門内ニ入ラセラレ、具綱前行シ奉リ、侍從ヲ除キ
 テ内大臣以下ノ先著者ハ御門外ニ留リ候シ、貞愛親王・
 鳩彦王ハ瑞垣南御門外ニ留リ候ス。御昇階ノ後、大床ノ
 御座ニ著御アラセラレ、和光ヨリ具綱ヲ經テ搦グル御玉

還御

申ヲ執リテ御拜アリ、之ヲ具綱ニ授ケサセラル。具綱之ヲ殿内ノ臨時祭主邦彦王ニ傳ヘ、王ハ之ヲ案上ニ奉奠ス、畢リテ御降階、十一時十分頓宮ニ還御、尋イデ正午行在所ニ還幸アラセラル。仍リテ邦彦王以下諸員ハ中重ノ版ニ就キ、和光・清彦奏樂ノ裡ニ御扉ヲ閉ヂ、諸員亦奉拜退下シ儀畢ル。

皇大神宮ニ親臨ノ儀

御下乗

翌二十一日ニハ皇大神宮親臨ノ儀アリ。其ノ儀概不豐受大神宮ニ於ケルト同ジキヲ以テ詳述セズ。天皇、午前九時行在所ヲ御出門、内宮頓宮ニテ御潔齋、御服ヲ換ヘサセラルレ、板垣南御門ノ石階下ニテ馬車ヲ下ラセラルレ、

還御

玉垣南御門外ニテ御修祓ノ後、瑞垣南御門内ニ入ラセラレ、御一揖ノ後、御昇階、大床ノ御座ニ著御、御拜アリ。大宮司子爵三室戸和光・掌典長岩倉具綱ヲ經テ捧グル御玉串ヲ執ラセラルレ、御拜ノ後、之ヲ具綱ニ授ケサセラル。具綱之ヲ臨時神宮祭主邦彦王ニ傳ヘ、王ノ案上ニ奉奠シ、具綱、御座ニ向ヒテ一拜シ御階ヲ降ル。御座ニテ御拜ノ後、大床ヲ下ラセラルレ、御階下ニテ御一揖アリ。畢リテ十一時十分頓宮ニ還御、尋イデ正午行在所ニ還幸アラセラル。以上ヲ以テ神宮親臨ノ儀ヲ訖ラセラルレ、二十日午前八時二十分行在所ヲ御出門、山田停車場御發車、

京都ニ遷幸

午後一時五十分京都停車場ニ著御、尊イテ二時二十分京都皇宮ニ遷幸アラセラル。大禮記録・官報・侍從武官府日誌・侍從職日記・典侍日記。

大禮行幸記
(三重縣)

神武天皇山陵ニ親謁ノ儀

二十四日、神武天皇山陵ニ親謁ノ儀ヲ行ハセラルルヲ以テ午前八時三十分京都皇宮御出門、九時二分京都停車場御發車、十一時十六分畝傍停車場御下車、直ニ馬車ニ乘御、畝傍山東北陵頓宮ニ著御アラセラル。是ヨリ先、山陵ニ於テハ黒木鳥居前中央ニ御拜所ヲ、其ノ東ニ奏樂舍ヲ、其ノ西ニ神饌所ヲ構ヘ、御拜所ト神饌所トノ間ニ渡廊ヲ設ケ、正門外東側ニ參列員ノ幄舎、西側ニ祭典奉

畝傍山東北陵頓宮ニ著御

御拜

仕員ノ幄舎ヲ構ヘ、御拜所内北方ニ簀薦ヲ敷キ、神饌案二脚ヲ設ク。午前十一時、大禮使諸員・掌典長岩倉具綱以下參進シテ本位ニ就キ、儀仗兵ハ所定ノ場所ニ整列シ、奏樂ノ裡ニ掌典佐伯有義以下進ミテ神饌・幣物ヲ供シ、岩倉掌典長祝詞ヲ奏シタル後、幣物案ノ前ニ簀薦ヲ敷キテ御拜座トシ、渡廊ノ東端ニ簀薦ヲ敷キ、御玉串案ヲ設ク。十一時五十三分頓宮ヲ出御、正門内ニ進マセラル。具綱御先導シ、御拜座ニテ御玉串ヲ執ラセラレ御拜アリ、畢リテ御玉串ヲ具綱ニ授ケサセラル。具綱之ヲ拜受シテ案上ニ奉奠シ、其ノ儀畢リ、頓宮ニ還御、午後零時二十

京都ニ遷幸
明治天皇山
陵ニ親謁ノ
儀

孝明・仁孝
光格三天皇
山陵ニ親謁
ノ儀

二分頓宮御出門、畝傍停車場ヨリ汽車ニ御搭乗、三時一分京都停車場御下車、京都皇宮ニ遷幸アラセラル。尋イデ二十五日ニハ明治天皇山陵ニ親謁ノ爲メ午前八時五十分京都皇宮ヲ御發轡、京都停車場ヨリ汽車ニ乘御、桃山停車場ニ御下車、九時五十分伏見桃山陵頓宮ニ著御、尋イデ頓宮御出門、山陵ニ御拜アリ、十時二十四分頓宮御出門、桃山停車場ヨリ汽車ニ御搭乗、京都停車場ニ御下車、十一時二十五分京都皇宮ニ遷御アラセラル。又二十日ニハ孝明・仁孝・光格三天皇山陵ニ親謁ノ儀アリ、午前九時二十分京都皇宮ヲ御出、同五十分頓宮ナル泉涌

東京ニ遷幸

寺書院ニ著御、十時二十分頓宮御出、先ツ孝明天皇、尋イデ仁孝・光格兩天皇山陵ニ御拜アリ、同五十六分頓宮ヲ御出、十一時四十五分京都皇宮ニ遷御アラセラル。大
記録・官報・侍從武官府日誌・侍從職日記・
典侍日記・大正四年奈良縣大禮事務記録

二十七日、即位ノ禮及ヒ大嘗祭ニ續キテ神宮竝ビニ神武・明治・孝明・仁孝・光格各天皇山陵ニ親謁ノ儀モ亦滞リナク終ラセ給ヘルヲ以テ、神器ヲ奉ジテ東京ニ遷幸ノ途ニ就カセラル。仍リテ午前六時春興殿ニ於テ祭典ヲ行ハシメ、御代拜侍從男爵澤宣元、尋イデ皇后御代拜掌侍吉見光子ノ拜禮アリ、畢リテ賢所ヲ御羽車ニ移御シ、

實所遺幸

鳳輦ニ先ダテテ前進、十時二十四分京都停車場ニ著御、同四十四分御發車、途中、大津・米原ノ兩停車場ニ停車アリテ午後二時四十分名古屋停車場ニ御下車アリ、三時三十五分名古屋離宮ニ著御、御一泊アラセラル。尋イテ翌二十八日午前六時三十一分離宮ヲ御出門、賢所ヲ奉ジ七時七分名古屋停車場ニ著御、同二十六分御發車、途中、豊橋・濱松・静岡・沼津・山北ノ各停車場ニ停車、午後四時三十分東京停車場ニ著御、五時二十五分天機廳シク宮城ニ遺幸アラセラル。賢所ハ同二十六分温明殿ニ遺御アリ。猶ホ遺幸ニ當リテハ鹵簿其ノ他總テ行幸ノ際ニ同

ジ。

御、今回ノ大禮ハ登極令公布以後始メテ行ハセラルル所ニシテ、其ノ儀制ハ巨細トナク永ク軌度ヲ後世ニ貽スモノナリ。サレバ政府ハ特ニ意ヲ用ヒテ實施上些ノ遺憾ナカランコトヲ期シ、民庶齊シク滿腔ノ赤誠ヲ捧ゲテ盛典ヲ翹望セサル者ナシ。此ノ如クシテ思フ國體ノ本義ニ致シ寶祚ノ無窮ヲ禱リ、聖壽ノ無疆ヲ祝シ、報效ノ心力ヲ盡シテ、邦家ノ隆運ヲ扶翼セントスル至情自ラ露レテ、コノ鴻儀ヲ如上終ラセラルルハ誠ニ聖德ノ深大ニヨルトコロト謂フベシ。大禮記録・官報・侍從武官府日誌・侍從職日記・典侍日記

遷幸後賢所
御神樂ノ儀

遷幸後皇靈
殿・神殿ニ

二十九日、午後四時ヨリ遷幸後賢所御神樂ノ儀ヲ行ハル。其ノ鋪設裝束等ハ即位禮後一日賢所御神樂ノ儀ニ準ズ。午後五時二十三分綾綺殿ニ出御、内陣ニ入ラセラレ、掌典長岩倉具綱ノ捧グル御玉串ヲ執ラセラレ御拜アリ、内掌典朝山儀子御鈴ヲ奉仕シ、訖リテ入御アラセラル。次ニ皇后御代拜掌侍吉見光子ノ拜禮畢リテ皇族以下參列諸員順ヲ以テ拜禮シテ退下ス。尋イデ六時三十分御神樂ノ儀アリ、翌三十日午前零時二十分ニ及ベリ。大禮記録・官報・侍從武官府日誌・侍從職日記・典侍日記

三十日、遷幸後皇靈殿・神殿ニ親謁ノ儀ヲ行ハセラル

親謁ノ儀

大禮ニヨリ
祝賀ノ電報
ヲ寄セラレ
タル各國元
首及ビ皇族
ニ御答電

大正四年十一月

ルヲ以テ、午前八時三十分祭典ヲ行ハシメ、幣物・神饌ノ供進等式ノ如シ。掌典長岩倉具綱祝詞ヲ奏ス。十時四分綾綺殿ヨリ出御、先ツ皇靈殿ニ、次ニ神殿ニ進御、兩殿御拜ノコト賢所ト同ジ。皇后御代拜掌侍吉見光子ニ次ギテ參列ノ皇族・公族以下諸員順次ニ拜禮シテ退下シ、其ノ儀全ク終レルハ十一時一分ナリ。大禮記録・官報・侍從武官府日誌・侍從職日記・典侍日記

是ノ日、大禮ニ當リ祝賀ノ電報ヲ寄セラレタル伊太利國皇帝ウいつとりよ・えまにのえーれ第三世・白耳義國皇帝あるべーる・亞米利加合衆國大統領うつどろう・う

えるぼそ智
國使節遊ク

いるそん・露西亞國皇帝にこらす第二世・諾威國皇帝は
一こん第七世・英吉利國皇帝じよ一じ第五世・佛蘭西國
大統領れーもん・ほあんかれー・西班牙國皇帝どん・あ
るふおんそ第十三世及ヒ皇族あるふおんそ親王・和蘭國
皇帝ういるへるみな・智利國大統領らもん・ばろす・る
こ・支那國大統領袁世凱・丁抹國皇帝くりすちあん第十
世・暹羅國皇帝うあじらうゆーどニ答禮ノ電報ヲ發送ア
ラセラル。

是ヨリ先、十七日智利國特派使節本邦駐劄同國特命全
權公使どん・ふらんしすこ・ほった・えるぼそ大禮參列

圖書寮

米田虎雄病
ズ

ノ爲メ京都滯在中、偶々病ヲ得テ其ノ宿舍ナル京都ほて
るニ於テ急逝セルヲ以テ、弔電ヲ同國大統領ら・もん・
ばろす・るこニ發送アラセラル。其ノ文左ノ如シ。

貴共和國ノ卓越ナル代表者えるぼそ氏ノ突然ノ死去

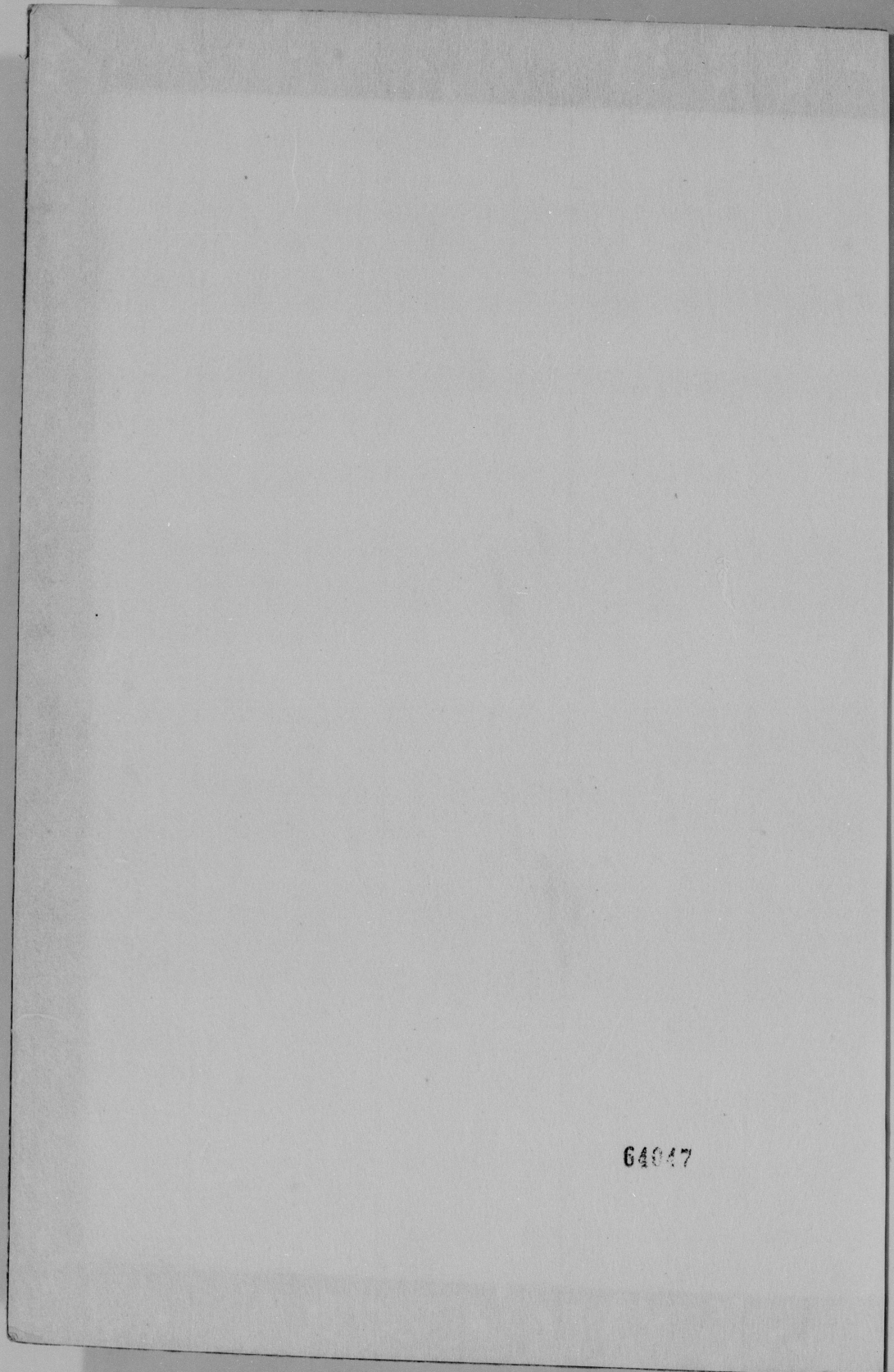
ニ對シ朕ノ誠實ナル弔詞ヲ領セラレンコトヲ冀フ

翌十八日るこ大統領ノ答禮ノ電報ニ接シ給フ。尋イデ二
十五日築地かとりつく教會堂ニ於テ葬儀執行ニ當リ、式
部官子爵稻葉正繩ヲ勅使トシテ遣シ、弔意ヲ表セシメ花
環ヲ賜ヘリ、猶ホ又二十八日ニハ主獵頭正三位勳一等子
爵米田虎雄病篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從二

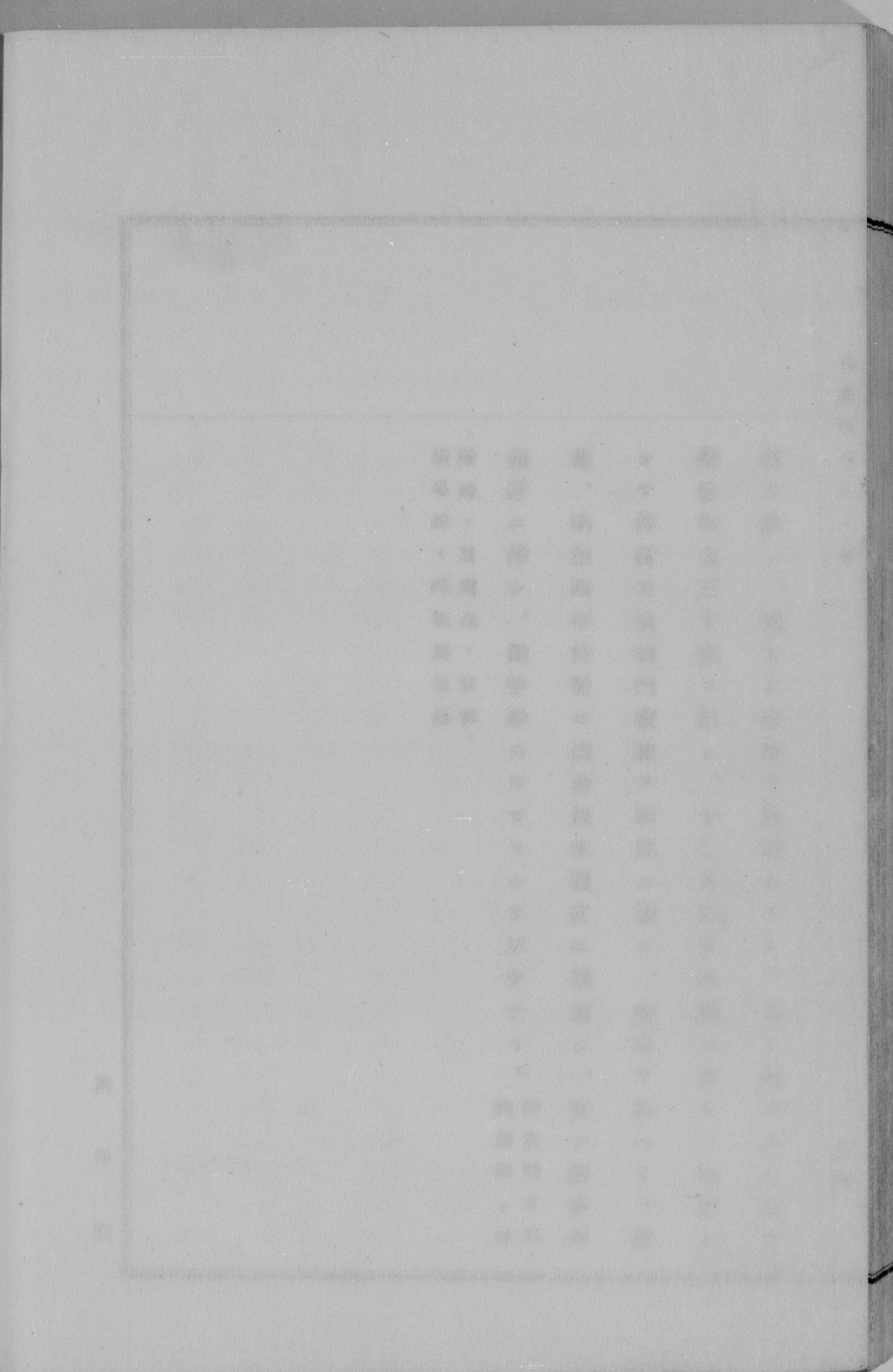
位ニ敍シ、旭日大綬章ヲ加授セラル。其ノ薨ズルニ及ビ
 祭桑料金三千圓ヲ賜ヒ、十二月三日送葬ニ當リ、勅使ト
 シテ侍從大炊御門家政ヲ同邸ニ遣シ、幣帛ヲ賜ヘリ。虎
 雄、明治四年侍從ニ出身以來現官ニ累進シ、其ノ間多年
 備近ニ侍シ、勤勞尠カラサリシヲ以テナリ。侍從職日記、
 敍勳錄、位
 階錄・恩賜錄・官報
 慶弔錄・外交慶弔錄

圖書寮

3205 160



64047



3205 161

